

1 「令和5年度全国学力・学習状況調査」の結果の概要について

(1) 「令和5年度全国学力・学習状況調査」実施状況の概要

本年4月18日(火)に調査を実施。調査の対象は、全国の小学校第6学年・義務教育学校前期課程第6学年・特別支援学校小学部第6学年、中学校第3学年・義務教育学校後期課程第3学年・中等教育学校前期課程第3学年・特別支援学校中学部第3学年の原則として全児童生徒。

○教科に関する調査として、国語、算数・数学、英語(中学校)の調査を、質問紙調査として、児童生徒及び学校を対象に生活習慣や学習環境等についての調査を実施

○本県の調査実施校は、公立小学校等750校(643校)、公立中学校等368校(315校)、合計1,118校(958校)

※()内は、千葉市を除いた数。※公立中学校は、当日時間を遅延して実施した学校(2校)を含む。

(2) 教科に関する結果の概要

○教科に関する調査(平均正答数及び平均正答率)において、本県公立学校の結果は、全国平均と比較して小学校及び中学校において、各教科とも、全国平均と比較して同等の状況である。全ての校種・教科において、記述式の問題は改善傾向にあるものの引き続き課題がみられる。児童生徒の正答数の分布状況は全国の状況とほぼ同等である。

令和5年度教科区分別調査結果(平均正答数及び平均正答率)

※平均正答数及び平均正答率の 上段(白)は、千葉県(千葉市を含む)、()内は、千葉県(千葉市を除く) 下段(網掛け)は、全国(公立)を示す。

小学校	平均正答数	平均正答率(%)	中学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語 <全14問>	9.3 (9.3)	67 (66)	国語 <全15問>	10.4 (10.3)	69 (69)
	9.4	67.2		10.5	69.8
算数 <全16問>	9.9 (9.9)	62 (62)	数学 <全15問>	7.6 (7.5)	51 (50)
	10.0	62.5		7.6	51.0
			英語 <全17問>	7.8 (7.7)	46 (46)
				7.7	45.6

※文部科学省からの発表に基づき、平成28年度からは、県の平均正答率について、小数点以下を四捨五入した結果を示す。

※英語の調査結果については、「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」の合計を集計した数値である。

【参考】平均正答率の前回教科別調査結果との比較 (%) ※千葉県を含む

小学校		令和5年度	令和4年度
国語	千葉県	67	66
	全国	67.2	65.6
	差	▲0.2	0.4
算数	千葉県	62	63
	全国	62.5	63.2
	差	▲0.5	▲0.2

中学校		令和5年度	令和4年度*
国語	千葉県	69	68
	全国	69.8	69.0
	差	▲0.8	▲1.0
数学	千葉県	51	50
	全国	51.0	51.4
	差	0	▲1.4
英語	千葉県	46	56
	全国	45.6	56.0
	差	0.4	0

*英語は平成31年度

英語「話すこと」調査 〈全5問〉	令和5年度	平成31年度
当日実施校の結果から 推定された全国の 参考値：平均正答率	0.6	1.5
同平均正答率	12.4	30.8

※英語「話すこと」調査の結果については、当日実施校の結果から推定される全国値のみが公表され、都道府県別、指定都市別の公表は行われない。

＜小学校国語＞ [参照] P19～20、別冊資料 P資1

問題形式別 ※ () 内は平均正答率

短答式…1.5ポイント低 (全国62.7% 千葉県61.2%)

記述式…1.0ポイント低 (全国51.1% 千葉県50.1%)

全国より平均正答率が高い設問 ※ () 内は平均正答率

1四「文章の種類とその特徴について理解しているかどうかをみる」

0.5ポイント高 (全国79.8% 千葉県80.3%)

2一「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができるかどうかをみる」

0.4ポイント高 (全国90.0% 千葉県90.4%)

2二「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる」

0.4ポイント高 (全国67.4% 千葉県67.8%)

全国より平均正答率が低い設問 ※ () 内は平均正答率

1 二 「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」

2.7ポイント低 (全国26.7% 千葉県24.0%)

1 三 (1) ア 「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる」

2.1ポイント低 (全国52.8% 千葉県50.7%)

無解答率が高い設問 ※ () 内は無解答率

3 二 「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる」

0.2ポイント高 (全国14.3% 千葉県14.5%)

<中学校国語> [参照] P21～22、別冊資料 P資2

問題形式別 ※ () 内は平均正答率

短答式…1.3ポイント低 (全国65.6% 千葉県64.3%)

記述式…1.1ポイント低 (全国68.0% 千葉県66.9%)

全国より平均正答率が高い設問 ※ () 内は平均正答率

2 一 「事象や行為、心情を表す語句について理解しているかどうかをみる」

1.3ポイント高 (全国91.1% 千葉92.4%)

2 三 「文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握することができるかどうかをみる」

1.9ポイント高 (全国74.2% 千葉県76.1%)

全国より平均正答率が低い設問 ※ () 内は平均正答率

4 一 「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる」

2.9ポイント低 (全国82.5% 千葉県79.6%)

4 三 「文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる」

1.7ポイント低 (全国50.0% 千葉県48.3%)

無解答率が高い設問 ※ () 内は無解答率

1 四 「聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができるかどうかをみる」

1.2ポイント高 (全国10.8% 千葉県12.0%)

4 三 「文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる」

1.2ポイント高 (全国20.7% 千葉県21.9%)

<小学校算数> [参照] P23～24、別冊資料 P資3

問題形式別 ※ () 内は平均正答率

短答式…0.3ポイント低 (全国74.7% 千葉県74.4%)

記述式…0.6ポイント低 (全国47.3% 千葉県46.7%)

全国より平均正答率が高い設問 ※ () 内は平均正答率

2 (3) 「正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる」

0.1ポイント高 (全国24.9% 千葉県25.0%)

3 (4) 「(2位数) ÷ (1位数) の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を
考えることができるかどうかをみる」

0.1ポイント高 (全国47.6% 千葉県47.7%)

4 (2) 「「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができ
るかどうかをみる」

0.7ポイント高 (全国75.7% 千葉県76.4%)

全国より平均正答率が低い設問 ※ () 内は平均正答率

1 (4) 「一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をすることができるかど
うかをみる」

1.5ポイント低 (全国80.8% 千葉県79.3%)

2 (1) 「台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる」

1.2ポイント低 (全国59.8% 千葉県58.6%)

4 (3) 「示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見い
だした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる」

1.2ポイント低 (全国56.2% 千葉県55.0%)

無解答率が高い設問 ※ () 内は無解答率

4 (3) 「示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見い
だした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる」

1.5ポイント高 (全国13.8% 千葉県15.3%)

<中学校数学> [参照] P25～27、別冊資料 P資4

問題形式別 ※ () 内は平均正答率

短答式…0.3ポイント低 (全国62.6% 千葉県62.3%)

記述式…1.3ポイント低 (全国41.6% 千葉県40.3%)

全国より平均正答率が高い設問 ※ () 内は平均正答率

1 「自然数の意味を理解しているかどうかをみる」

1.2ポイント高 (全国46.1% 千葉県47.3%)

5 「累積度数の意味を理解しているかどうかをみる」

2.6ポイント高 (全国46.1% 千葉県48.7%)

全国より平均正答率が低い設問 ※ () 内は平均正答率

- 7 (1) 「四分位範囲の意味を理解しているかどうかをみる」
2.6ポイント低 (全国65.7% 千葉県63.1%)
- 8 (3) 「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる」
2.4ポイント低 (全国42.8% 千葉県40.4%)

無解答率が高い設問 ※ () 内は無解答率

- 6 (3) 「結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明することができるかどうかをみる」
2.0ポイント高 (全国24.7% 千葉県26.7%)
- 9 (1) 「ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる」
1.4ポイント高 (全国24.7% 千葉県26.1%)

<中学校英語> [参照] P28～30、別冊資料 P資5

問題形式別 ※ () 内は平均正答率

- 短答式…0.1ポイント低 (全国30.1% 千葉県30.0%)
記述式…0.2ポイント低 (全国13.5% 千葉県13.3%)

全国より平均正答率が高い設問 ※ () 内は平均正答率

- 1 (3) 「情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる」
1.6ポイント高 (全国49.8% 千葉県51.4%)
- 2 「日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる」
2.0ポイント高 (全国61.1% 千葉県63.1%)

全国より平均正答率が低い設問 ※ () 内は平均正答率

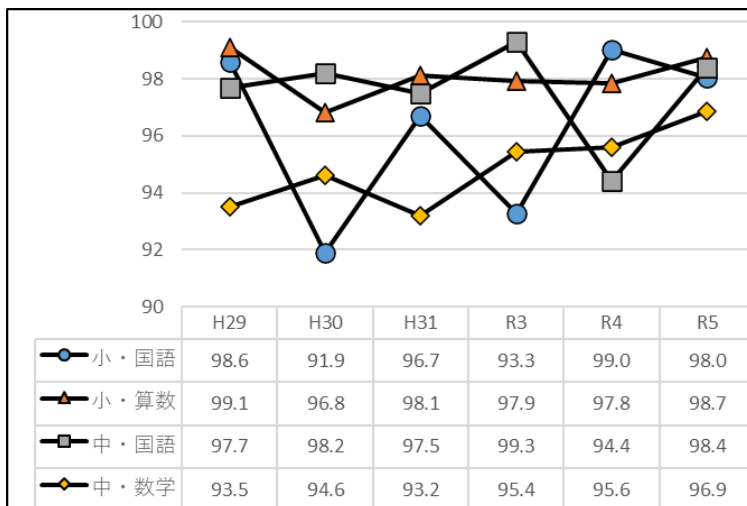
- 8 (1) 「社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることができるかどうかをみる」
0.6ポイント低 (全国56.1% 千葉県55.5%)
- 9 (2) 「「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことができるかどうかをみる」
1.0ポイント低 (全国29.0% 千葉県28.0%)

無解答率が高い設問 ※ () 内は無解答率

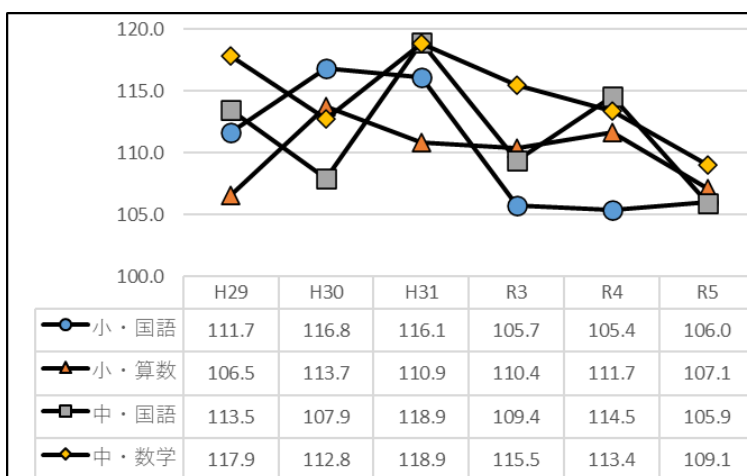
- 8 (2) 「社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる」
3.8ポイント高 (全国29.3% 千葉県33.1%)
- 9 (2) 「「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことができるかどうかをみる」
1.9ポイント高 (全国24.5% 千葉県26.4%)

[参考] 本県の記述式問題の平均正答率と無解答率（千葉市含む）の推移

[平均正答率]



[無解答率]



(3) 質問紙調査に関する結果の概要

○探究的な学び

【学校質問紙 3 7】

「調査対象学年の児童に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか」

※肯定的回答をした学校

小学校 89.5% (R3) →89.7% (R4) →92.8% (R5) 全国92.7% (R5)

中学校 82.7% (R3) →85.0% (R4) →89.7% (R5) 全国92.1% (R5)

○ICTを活用した学習状況（ICTの活用頻度）

【学校質問紙 5 5（小） 6 3（中）】 [参照] P41

「調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか」

※「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答した学校

小学校 83.1% (全国85.1%) (R4) → 83.5% (全国90.6%) (R5)

中学校 75.9% (全国81.2%) (R4) → 80.5% (全国86.7%) (R5)

○児童生徒の学習時間

【児童生徒質問紙 1 7】 [参照] P37

「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」

※「3時間以上」「2時間以上、3時間より少ない」と回答した児童生徒

児童 26.7% (R3) →25.8% (R4) →25.9% (R5) 全国 25.6% (R5)

生徒 46.3% (R3) →37.1% (R4) →36.3% (R5) 全国 33.7% (R5)

※「30分より少ない」「全くしない」と回答した児童生徒

児童 14.7% (R3) →15.9% (R4) →17.5% (R5) 全国 16.0% (R5)

生徒 8.8% (R3) →13.8% (R4) →15.7% (R5) 全国 15.9% (R5)

○調査結果の活用

【学校質問紙 7 8（小） 8 6（中）】

「令和4年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか」

※肯定的回答をした学校

小学校 86.5% (R3) →92.9% (R4) →94.4% (R5) 全国96.0% (R5)

中学校 78.2% (R3) →85.8% (R4) →88.0% (R5) 全国93.0% (R5)

○主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況と平均正答率とのクロス集計

【学校質問紙33】 [参照] P35

「調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、授業において、児童〔生徒〕自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか」

■ よく行った □ どちらかといえば、行った ▨ あまり行わなかった ▩ 全く行わなかった

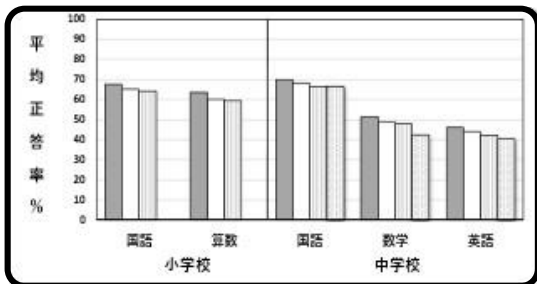
〈R5 全国との比較〉



〈経年変化_本県〉



〈R5 回答結果と正答率の関連_本県〉



全国と比べるとやや低いものの、「主体的・対話的で深い学び」に関する指導を取り入れている学校の割合は、増加している。

「主体的・対話的で深い学び」に関する指導を取り入れている学校ほど、平均正答率が高い。

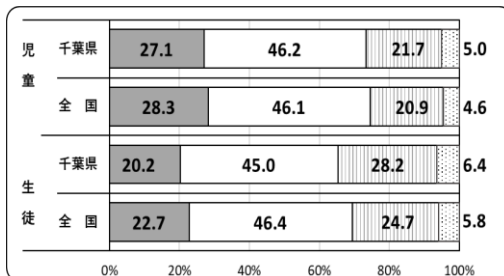
○自分の考えをまとめる活動と平均正答率とのクロス集計

【児童生徒質問紙34〔38〕】

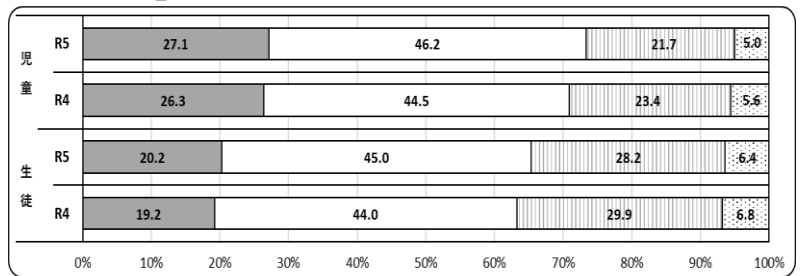
「5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」

■ 当てはまる □ どちらかといえば、当てはまる ▨ どちらかといえば、当てはまらない ▩ 当てはまらない

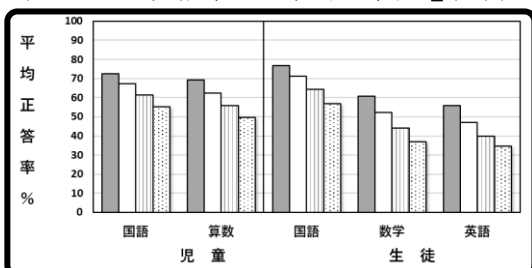
〈R5 全国との比較〉



〈経年変化_本県〉



〈R5 回答結果と正答率の関連_本県〉



全国と比べると低いものの、「自分の考えをまとめる活動」を行っている児童生徒の割合は、増加している。

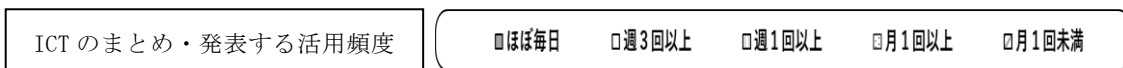
「自分の考えをまとめる活動」を行っている児童生徒ほど、平均正答率が高い。

○「主体的・対話的で深い学び」「ICTの活用頻度」の関係

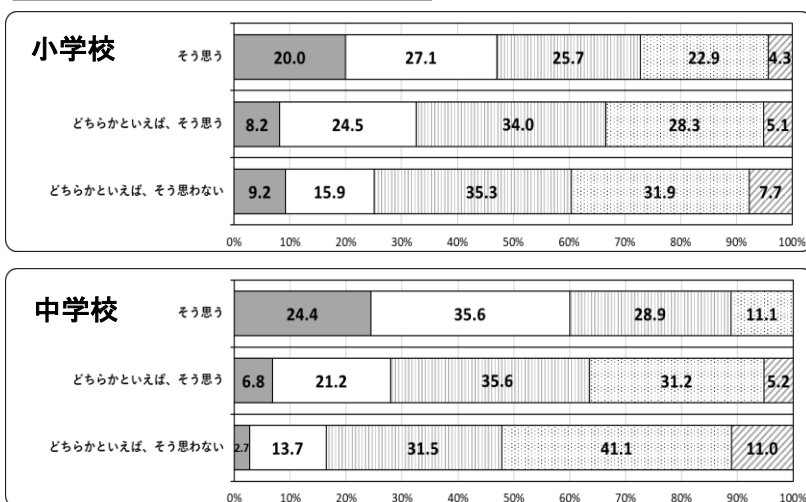
<クロス集計> [主体的・対話的で深い学び] × [ICT機器の活用頻度]

【学校質問紙27】「調査対象学年の児童〔生徒〕は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか」

【学校質問紙57（小）・65（中）】「調査対象学年の児童〔生徒〕が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面は、児童〔生徒〕一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか」



授業で工夫して発言や発表を行うことができているか



授業で「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を行っている学校ほど、ICT機器を活用している傾向が見られる。

○「ICTの活用頻度」「英語の授業内容の理解度」の関係

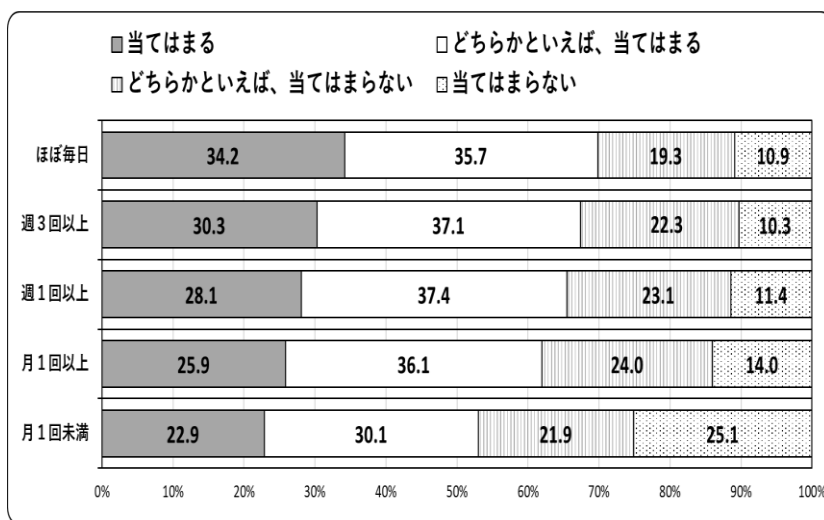
<クロス集計> [ICT機器の授業での活用頻度] × [英語の授業内容の理解度]

【生徒質問紙33（中）】「1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」

【生徒質問紙61（中）】「英語の授業の内容はよくわかりますか」

英語の授業内容の理解度

ICT機器の活用頻度



授業でのICT機器の活用頻度が高いほど、英語の授業内容の理解度が高い傾向が見られる。

○「社会経済的背景 (SES)」「主体的・対話的で深い学び」「平均正答率」の関係
 <三重クロス集計>

[横軸：家の蔵書数] × [グラフ：授業で工夫して発表] × [縦軸：平均正答率]

【児童生徒質問紙 2 2 × 3 2 (小) ・ 3 6 (中) × 平均正答率

「あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか (雑誌、新聞、教科書は除く)」

(ア) 0～25冊 (イ) 26～100冊 (ウ) 101冊以上

【児童生徒質問紙 3 2 (小) ・ 3 6 (中)】

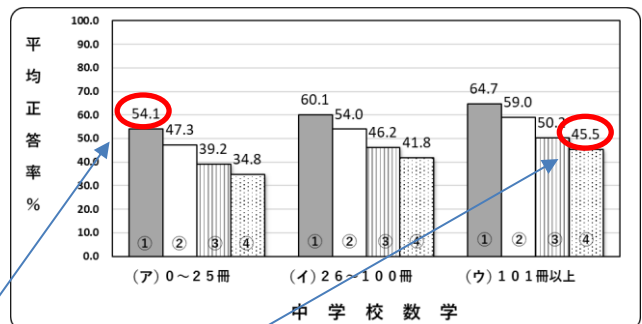
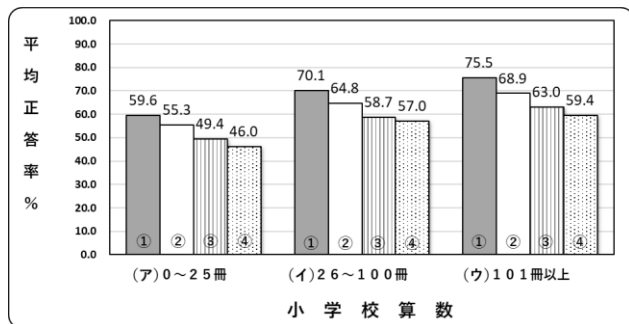
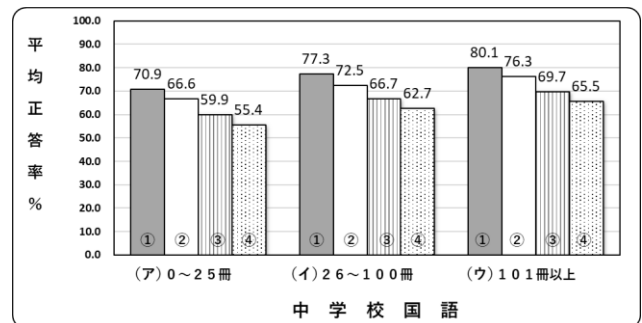
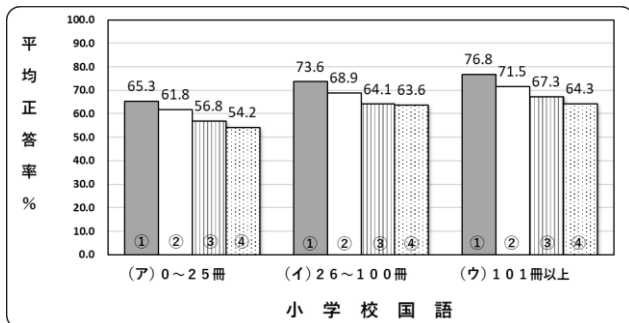
「5年生まで〔1、2年生のとき〕にうけた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」

①発表していた

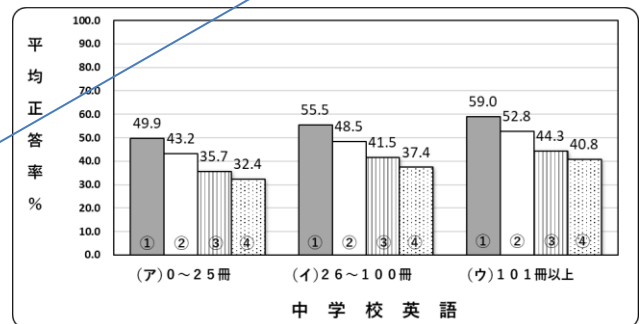
②どちらかといえば、発表していた

③どちらかといえば、発表していなかった

④発表していなかった



家にある本が0～25冊だが、「授業で工夫して発表していたか」に「①発表していた」と回答した生徒の平均正答率は54.1%。
 家にある本が101冊以上だが、「授業で工夫して発表していたか」に「④発表していなかった」と回答した生徒の平均正答率は45.5%。



家庭の社会経済的背景 (SES : Socio-Economic Status) が低い児童生徒ほど、各教科の正答率が低い傾向が見られるが、「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだ児童生徒は、SESが低い状況にあっても、各教科の正答率が高い傾向が見られる。

※本資料では、文部科学省調査を参考に、「家にある本の冊数」を家庭のSESの代替指標として用いている。

○「朝食を毎日食べる」「課題解決に向け、自分で取り組む」「平均正答率」の関係
 <三重クロス集計>

[横軸：朝食を毎日食べる] × [グラフ：自分で取り組む] × [縦軸：平均正答率]

【児童生徒質問紙1】

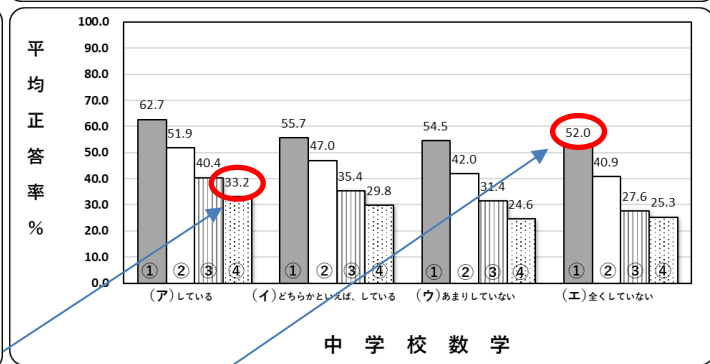
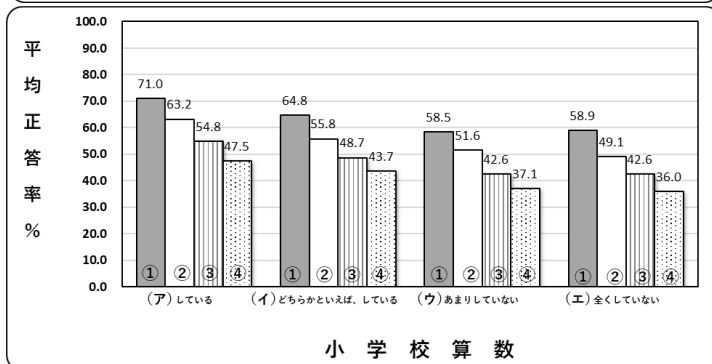
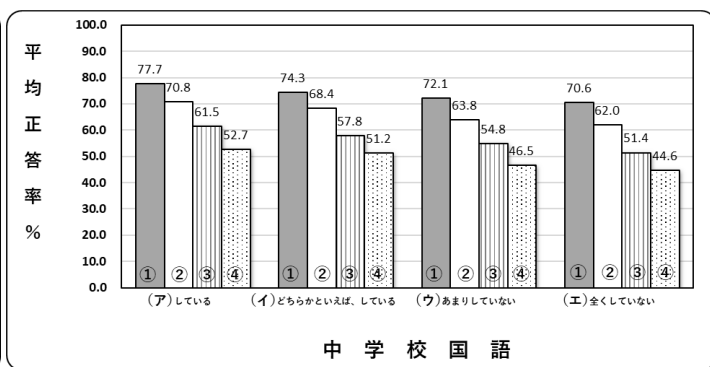
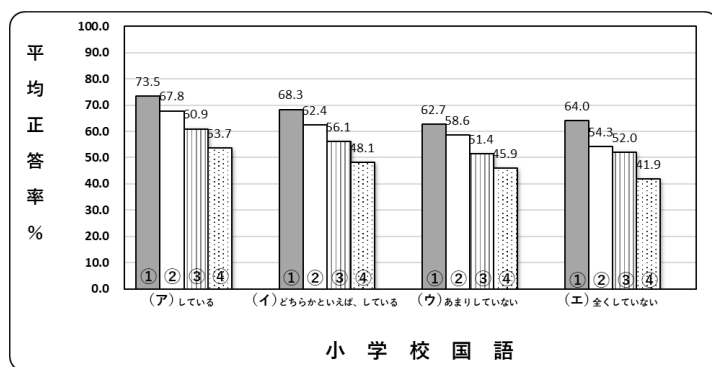
「朝食を毎日食べていますか」

- (ア) している (イ) どちらかといえば、している (ウ) あまりしていない
 (エ) 全くしていない

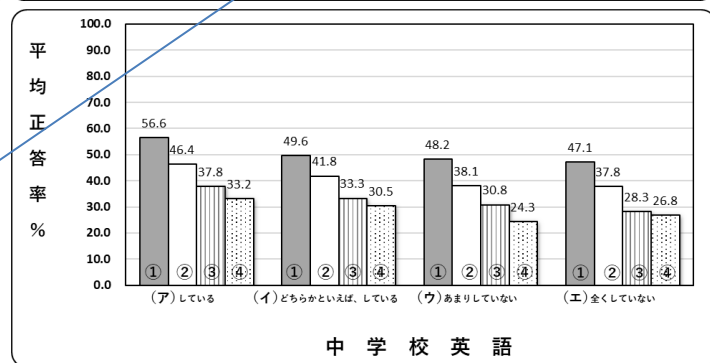
【児童生徒質問紙33(小)・37(中)】

「5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」

- ①当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる
 ③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない



朝食を毎日食べているが、「授業で課題解決に向け、自分で考え、自分から取り組んだか」に「④当てはまらない」と回答した生徒の平均正答率は33.2%。
 朝食を毎日食べていないが、「授業で課題解決に向け、自分で考え、自分から取り組んだか」に「①当てはまる」と回答した生徒の平均正答率は52.0%。



朝食を毎日食べている児童生徒ほど、各教科の正答率が高い傾向が見られるが、「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだ児童生徒は、朝食を毎日食べていない児童生徒であっても、各教科の正答率が高い傾向が見られる。

(4) 今後の対応

ア 各学校での調査結果の分析と活用の充実

各学校において、県教育委員会が開発した分析ツール等を用いて、調査結果を分析し、学力向上に向けた授業改善に活用できるようにする。

具体的には、各学校が教科に関する調査や質問紙調査の結果を多面的・多角的に分析し、自校の特色や課題などを明確にすることで、学力向上に向けた目標設定や具体的な方法を検討していく。

さらに、教育事務所が行う学校訪問において、分析内容や課題解決等の取組について学校に応じた指導・助言を行う。

イ 学力向上に特に効果をあげている取組の周知

今回調査において特に成果の見られた学校の取組を、家庭や地域の状況も踏まえた上で調査する。その取組を好事例として、学校訪問や学力向上交流会、県教育委員会のホームページ等で周知し、全ての学校が自校の状況に応じて実践することができるように働きかける。

ウ 本県の課題を反映させたリーフレットや実践事例、「学力向上の手引き」の作成

今回明らかになった課題を踏まえ、学力向上通信や年度末に発行する学力向上のためのリーフレット、授業実践アイデア例等を作成し、授業改善に向けた取組を後押しする。また、指導改善のために、本県の調査結果の詳細や分析ツールの活用方法などを掲載した「学力向上の手引き」を作成し、Web ページに掲載することによって、各校における校内研修や教育課程編成における活用を促進する。

エ 「思考し、表現する力を高める」実践モデルプログラムの活用推進

「主体的・対話的で深い学び」の授業改善をより推進していくために、県独自のモデルプログラムの活用推進に取り組む。本県の授業改善「キーワード」の「自分の言葉で学習のまとめを書く」を継続しつつ、「自分で取り組む」「広げ深める」の過程にも重きを置き、児童生徒の主体的な学びを促進する。

オ 校内研修の充実

学習指導要領で児童生徒に求められている力を身に付けさせ、「令和の日本型学校教育」の構築を実現するために、総合教育センター作成の「校内研究モデルプラン」をさらに周知することで、学力向上につながる校内研修の充実を後押しする。また、ICT 機器の活用についても、「GIGAスクール通信」や県HPで周知し、各学校で研修が充実するよう支援する。

カ 家庭学習の充実

家庭学習の充実のため「ちばっ子チャレンジ100」「ちばのやる気学習ガイド」「家庭学習のすすめ」サイトをさらに周知し、活用促進を図る。

引き続き、県教育委員会では、調査結果の詳細な分析を行い、具体的な改善策を示していく。

2 教科区分別の平均正答率等の経年変化 —教科に関する調査—

令和4年度

※・上段(白)は、千葉県(公立)
 ・上段(白)の()内は、千葉県(千葉市を除く公立)
 ・下段(網掛け)は、全国(公立)を示す。

小学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語 <全14問>	9.2 (9.2)	66 (66)
	9.2	65.6
算数 <全16問>	10.0 (10.0)	63 (62)
	10.1	63.2
理科 <全17問>	10.7 (10.6)	63 (62)
	10.8	63.3

中学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語 <全14問>	9.5 (9.5)	68 (68)
	9.7	69.0
数学 <全16問>	7.0 (7.0)	50 (50)
	7.2	51.4
理科 <全21問>	10.2 (10.1)	48 (48)
	10.4	49.3

*文部科学省からの発表に基づき、平成28年度からは、県の平均正答率について、小数点以下を四捨五入した結果を示す。

令和3年度

※・上段(白)は、千葉県(公立)
 ・上段(白)の()内は、千葉県(千葉市を除く公立)
 ・下段(網掛け)は、全国(公立)を示す。

小学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語 <全14問>	9.0 (9.0)	65 (64)
	9.1	64.7
算数 <全16問>	11.3 (11.2)	70 (70)
	11.2	70.2

中学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語 <全14問>	9.1 (9.0)	65 (64)
	9.0	64.6
数学 <全16問>	9.0 (8.9)	56 (56)
	9.1	57.2

令和2年度 ※新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、実施せず。問題配付のみ。

平成31年度(令和元年度)

小学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語 <全14問>	8.8 (8.8)	63 (63)
	8.9	63.8
算数 <全14問>	9.2 (9.2)	66 (65)
	9.3	66.6

中学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語 <全10問>	7.2 (7.2)	72 (72)
	7.3	72.8
数学 <全16問>	9.2 (9.2)	58 (57)
	9.6	59.8
*英語 <全21問>	11.7 (11.6)	56 (55)
	11.8	56.0

*中学校英語は、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の平均正答数及び平均正答率の結果を示す。

*英語の「話すこと」調査は、実施校の全国(国公私立を含む)総数のみを公表し、結果については、全国の平均正答数及び平均正答率を「参考値」として公表。都道府県別、指定都市別の公表は行わない。また、「話すこと」に関する問題は、原則として口述式で解答するものとなっている。

(参考)

*英語 (話すこと) <全5問>	1.5	30.8
------------------------	-----	------

平成30年度

小学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識) <全12問>	8.4 (8.4)	70 (70)
	8.5	70.7
国語B(活用) <全8問>	4.3 (4.3)	53 (53)
	4.4	54.7
算数A(知識) <全14問>	8.7 (8.7)	62 (62)
	8.9	63.5
算数B(活用) <全10問>	5.1 (5.0)	51 (50)
	5.1	51.5
理科 <全16問>	9.8 (9.8)	61 (61)
	9.6	60.3

中学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識) <全32問>	24.3 (24.3)	76 (76)
	24.3	76.1
国語B(活用) <全9問>	5.5 (5.5)	61 (61)
	5.5	61.2
数学A(知識) <全36問>	23.0 (23.0)	64 (64)
	23.8	66.1
数学B(活用) <全14問>	6.4 (6.4)	46 (46)
	6.6	46.9
理科 <全27問>	17.6 (17.5)	65 (65)
	17.9	66.1

平成29年度

小学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識) <全15問>	11.2 (11.2)	75 (75)
	11.2	74.8
国語B(活用) <全9問>	5.2 (5.1)	57 (57)
	5.2	57.5
算数A(知識) <全15問>	11.6 (11.6)	77 (77)
	11.8	78.6
算数B(活用) <全11問>	5.1 (5.0)	46 (46)
	5.1	45.9

中学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識) <全32問>	24.4 (24.3)	76 (76)
	24.8	77.4
国語B(活用) <全9問>	6.5 (6.4)	72 (72)
	6.5	72.2
数学A(知識) <全36問>	22.6 (22.4)	63 (62)
	23.3	64.6
数学B(活用) <全15問>	7.0 (7.0)	47 (46)
	7.2	48.1

【参考】 ※以下、平均正答数及び平均正答率の、上段は千葉県(公立)、下段は全国(公立)を示す。

平成28年度 ※文部科学省からの依頼に基づき、平成28年度からは、県平均正答率について、小数点以下を四捨五入した結果を示す。

小学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識) <全15問>	10.9	73
	10.9	72.9
国語B(活用) <全10問>	5.8	58
	5.8	57.8
算数A(知識) <全16問>	12.2	77
	12.4	77.6
算数B(活用) <全13問>	6.1	47
	6.1	47.2

中学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識) <全33問>	25.1	76
	25.0	75.6
国語B(活用) <全9問>	6.0	67
	6.0	66.5
数学A(知識) <全36問>	21.7	60
	22.4	62.2
数学B(活用) <全15問>	6.4	43
	6.6	44.1

平成27年度

小学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識) <全14問>	10.0 9.8	71.5 70.0
国語B(活用) <全9問>	5.8 5.9	64.5 65.4
算数A(知識) <全16問>	12.0 12.0	74.7 75.2
算数B(活用) <全13問>	5.9 5.9	45.1 45.0
理科 <全24問>	14.9 14.6	61.9 60.8

中学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識) <全33問>	25.1 25.0	76.0 75.8
国語B(活用) <全9問>	5.9 5.9	65.7 65.8
数学A(知識) <全36問>	22.8 23.2	63.4 64.4
数学B(活用) <全15問>	6.2 6.2	41.6 41.6
理科 <全25問>	13.0 13.3	52.0 53.0

平成26年度

小学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識) <全15問>	11.4 10.9	75.8 72.9
国語B(活用) <全10問>	5.5 5.5	55.5 55.5
算数A(知識) <全17問>	13.3 13.3	78.2 78.1
算数B(活用) <全13問>	7.6 7.6	58.8 58.2

中学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識) <全32問>	25.5 25.4	79.8 79.4
国語B(活用) <全9問>	4.7 4.6	51.7 51.0
数学A(知識) <全36問>	24.0 24.3	66.7 67.4
数学B(活用) <全15問>	9.0 9.0	60.1 59.8

平成25年度

小学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識) <全18問>	11.1 11.3	61.9 62.7
国語B(活用) <全10問>	5.0 4.9	50.1 49.4
算数A(知識) <全19問>	14.7 14.7	77.1 77.2
算数B(活用) <全13問>	7.7 7.6	59.4 58.4

中学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識) <全32問>	24.4 24.4	76.2 76.4
国語B(活用) <全9問>	6.1 6.1	68.1 67.4
数学A(知識) <全36問>	22.7 22.9	63.2 63.7
数学B(活用) <全16問>	6.6 6.6	41.5 41.5

平成24年度

※平成22年度、平成24年度は抽出調査のため、平均正答率については、誤差も含めた数値の幅「平均正答率の95%信頼区間」で示している。

小学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識) <全17問>	13.9 13.9	80.9 - 82.3 81.4 - 81.7
国語B(活用) <全11問>	6.3 6.1	56.4 - 58.3 55.4 - 55.8
算数A(知識) <全19問>	14.0 13.9	72.6 - 74.5 73.1 - 73.5
算数B(活用) <全13問>	7.8 7.7	59.3 - 61.3 58.7 - 59.1
*理科 <全24問>	15.0 14.6	61.8 - 63.3 60.8 - 61.1

中学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識) <全32問>	24.0 24.0	74.3 - 75.5 75.0 - 75.2
国語B(活用) <全9問>	5.7 5.7	62.9 - 64.2 63.2 - 63.4
数学A(知識) <全36問>	22.1 22.4	60.5 - 62.2 62.0 - 62.3
数学B(活用) <全15問>	7.3 7.4	47.7 - 49.9 49.2 - 49.5
*理科 <全26問>	13.0 13.3	49.4 - 50.9 50.9 - 51.1

*理科については、主として「知識」に関する問題と、主として「活用」に関する問題を一体的に出題している。

平成23年度 ※平成23年度は震災の影響で実施せず。問題の配付のみ。

平成22年度

小学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識) <全15問>	12.5	82.7 - 84.2
	12.5	83.2 - 83.5
国語B(活用) <全10問>	7.8	77.2 - 79.2
	7.8	77.7 - 78.0
算数A(知識) <全19問>	14.1	73.1 - 75.1
	14.1	74.0 - 74.4
算数B(活用) <全12問>	6.1	49.7 - 51.7
	5.9	49.1 - 49.5

中学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識) <全35問>	26.4	74.8 - 75.9
	26.3	75.0 - 75.2
国語B(活用) <全10問>	6.7	65.8 - 67.3
	6.5	65.1 - 65.5
数学A(知識) <全36問>	23.0	63.0 - 64.9
	23.3	64.4 - 64.8
数学B(活用) <全14問>	6.1	42.2 - 44.3
	6.1	43.1 - 43.5

平成21年度

小学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識) <全18問>	12.8	71.0
	12.6	69.9
国語B(活用) <全10問>	5.1	51.3
	5.1	50.5
算数A(知識) <全18問>	14.4	79.8
	14.2	78.7
算数B(活用) <全14問>	7.9	56.3
	7.7	54.8

中学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識) <全33問>	25.3	76.8
	25.4	77.0
国語B(活用) <全11問>	8.2	74.6
	8.2	74.5
数学A(知識) <全33問>	20.3	61.6
	20.7	62.7
数学B(活用) <全15問>	8.5	56.7
	8.5	56.9

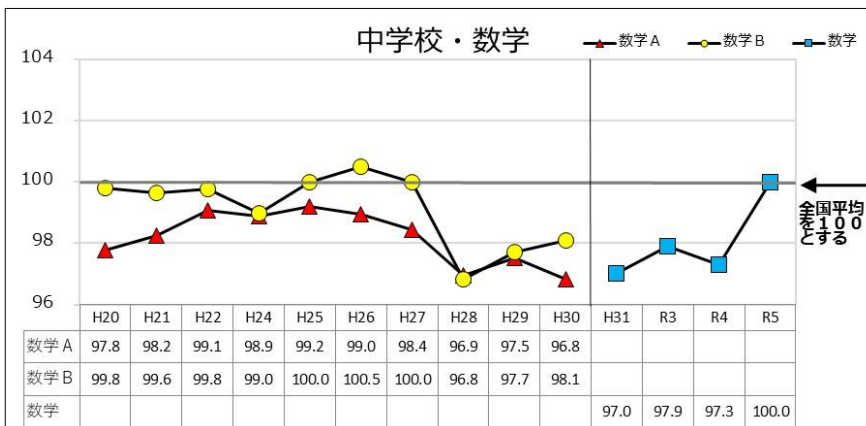
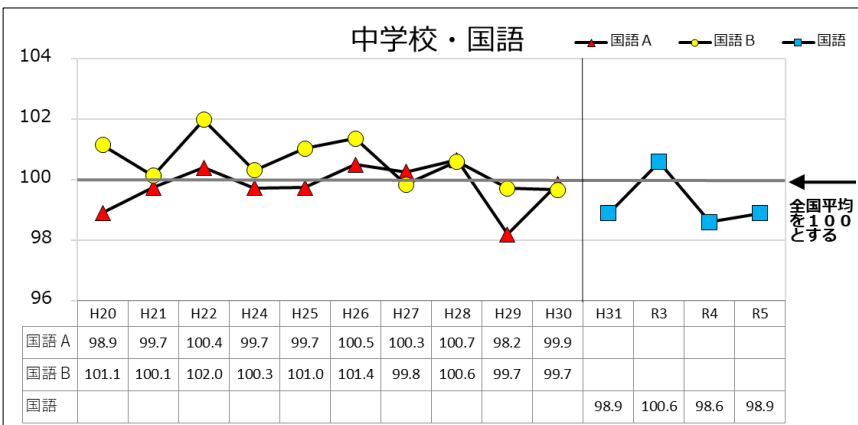
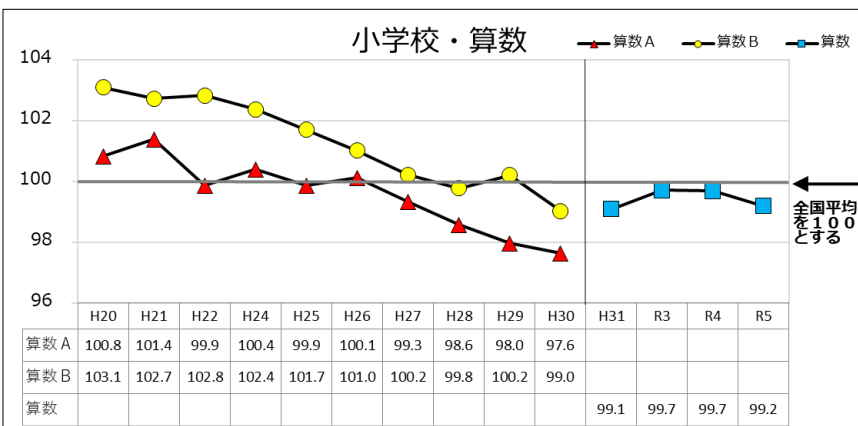
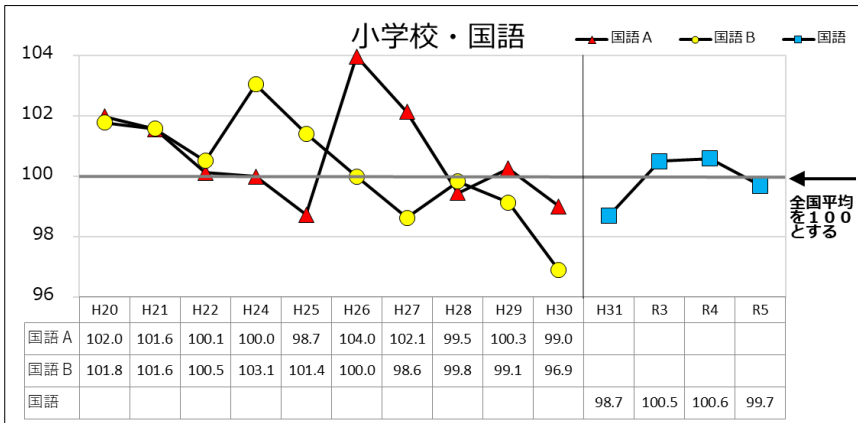
平成20年度

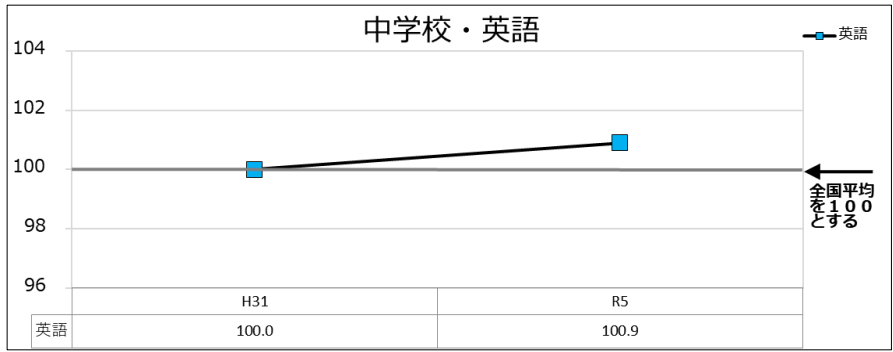
小学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識) <全18問>	12.0	66.7
	11.8	65.4
国語B(活用) <全12問>	6.2	51.4
	6.1	50.5
算数A(知識) <全19問>	13.8	72.8
	13.7	72.2
算数B(活用) <全13問>	6.9	53.2
	6.7	51.6

中学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識) <全34問>	24.8	72.8
	25.0	73.6
国語B(活用) <全10問>	6.2	61.6
	6.1	60.9
数学A(知識) <全36問>	22.2	61.7
	22.7	63.1
数学B(活用) <全15問>	7.4	49.1
	7.4	49.2

本県の平均正答率（全国比）の推移

※本県（公立）を100として、千葉県（公立）の結果を相対的に表した数値をもとに記述している。
 ※平成31年度（令和元年度）からは、A、B問題を一体化して問われるため、独立したグラフにして示している。





3 教科に関する調査結果

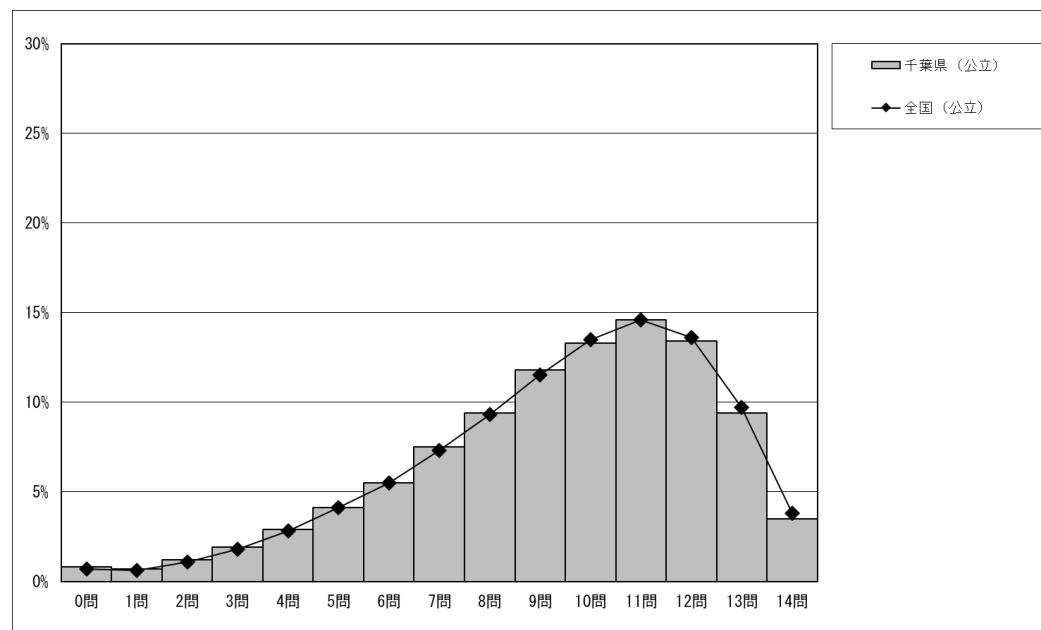
(1) 【小学校国語】

〈分類・区分別集計結果〉

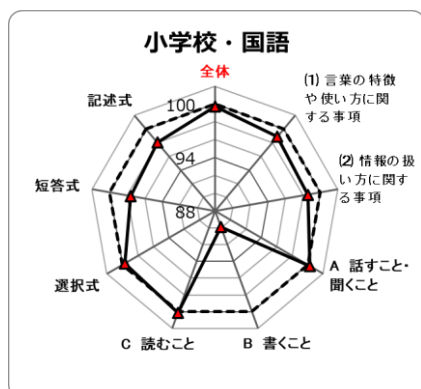
分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			千葉県(公立)	全国(公立)	
全体			14	67	67.2
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	5	70.4	71.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	62.5	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0		
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	72.8	72.6
		B 書くこと	1	24.0	26.7
		C 読むこと	3	71.3	71.2
評価の観点	知識・技能	7	68.2	68.9	
	思考・判断・表現	7	65.2	65.5	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	9	73.4	73.6	
	短答式	2	61.2	62.7	
	記述式	3	50.1	51.1	

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
千葉県(公立)	48,041	9.3 / 14	67	10.0	3.0
全国(公立)	964,177	9.4 / 14	67.2	10.0	2.9

〈小学校国語の児童の正答数分布グラフ〉



〈領域別・問題形式別指数〉



小学校・国語		指数
領域	全体	99.7
	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	98.9
	(2) 情報の扱い方に関する事項	98.6
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	
	A 話すこと・聞くこと	100.3
	B 書くこと	89.9
問題形式	C 読むこと	100.1
	選択式	99.7
	短答式	97.6
	記述式	98.0

・上のチャートと表は、全国を100としたときの指数で千葉県を表しています。

〈調査結果（全国）の概要〉

- 話や文章の中心となる語や文を捉えることは比較的できている。
 ○複数の情報を整理して自分の考えをまとめたり書き表し方を工夫したりすることに課題がある。

〈課題がみられる設問〉

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容						評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)			
		知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	千葉県(公立)	全国(公立)	全国との差	千葉県(公立)	全国(公立)	全国との差	
		関する事項	事(2)項情報の特徴や使い方に	する(3)事項我が国の言語文化に関する	A話すこと・聞くこと	B書くこと	C読むこと													
1一	原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる		5・6ア					○				○			63.2	64.7	-1.5	2.3	1.8	0.5
1二	図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる					5・6エ			○			○			24.0	26.7	-2.7	8.1	7.1	1.0
1三(1)ア	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる		5・6エ						○			○			50.7	52.8	-2.1	5.3	4.8	0.5
2二	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる								○			○			67.8	67.4	0.4	1.6	1.4	0.2
2三	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる		5・6イ						○			○			61.9	62.0	-0.1	1.7	1.6	0.1
2四	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる								○			○			55.8	56.2	-0.4	9.1	8.5	0.6
3二	目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる					5・6エ						○			70.5	70.2	0.3	14.5	14.3	0.2
3三	日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる		5・6キ						○			○			57.0	57.6	-0.6	8.9	9.5	-0.6

- ※課題となる設問とした基準
- ・平均正答率70%未満の設問
 - ・全国との差が5%以上の設問
 - ・無解答率が10%以上の設問

〈調査結果（千葉県）の詳細〉

○平均正答率は全国平均に比べ0.2ポイント低い状況である。前回（令和4年度）の平均正答率は全国平均に比べ0.4ポイント高い状況であった。正答数の分布は、全国の状況と同様である。
 〈領域別〉

- 「書くこと」については、平均を100としたときの指数に比べ10.1ポイント低い状況である。
 ○**図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。**（設問1二）
 ○**学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことに課題がある。**（設問1三）
 ○**文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることに課題がある。**（設問2四）
 ○**目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えを比較しながら、自分の考えをまとめることに課題がある。**（設問3二）

〈問題形式別〉

○全国平均を100としたときの指数に比べ「選択式」は0.3ポイント低く、「短答式」は2.4ポイント低く、「記述式」は2.0ポイント低い状況である。

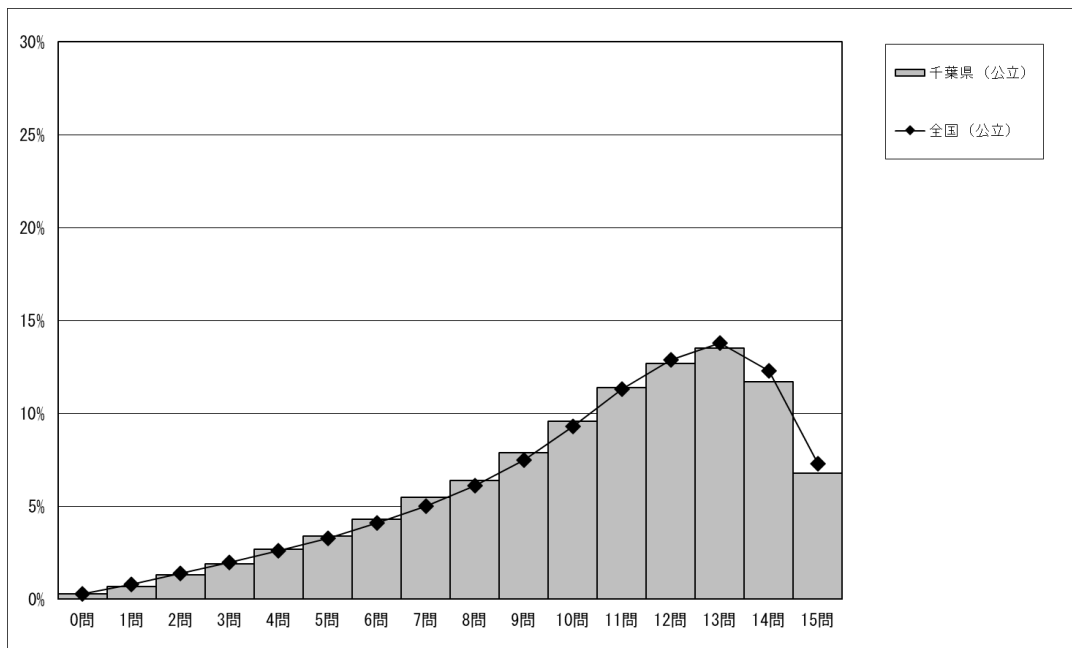
(2) 【中学校国語】

〈分類・区別集計結果〉

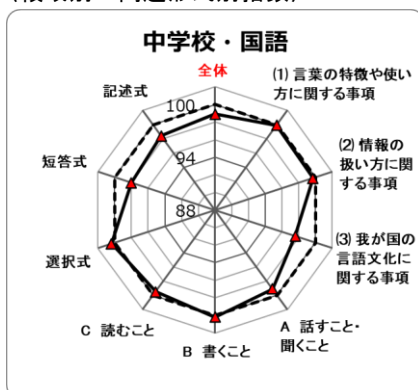
分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			千葉県(公立)	全国(公立)	
全体			15	69	69.8
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	2	67.4	67.5
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	63.2	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	3	72.9	74.7
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	81.5	82.2
		B 書くこと	2	63.3	63.2
		C 読むこと	4	63.4	63.7
評価の観点	知識・技能	7	68.6	69.4	
	思考・判断・表現	9	69.4	69.7	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	7	73.4	73.1	
	短答式	4	64.3	65.6	
	記述式	4	66.9	68.0	

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
千葉県(公立)	44,879	10.4 / 15	69	11.0	3.3
全国(公立)	892,738	10.5 / 15	69.8	11.0	3.4

〈中学校国語の生徒の正答数分布グラフ〉



〈領域別・問題形式別指数〉



中学校・国語		
領域	全体	98.9
	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	99.9
	(2) 情報の扱い方に関する事項	99.7
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	97.6
問題形式	A 話すこと・聞くこと	99.1
	B 書くこと	100.2
	C 読むこと	99.5
問題形式	選択式	100.4
	短答式	98.0
	記述式	98.4

・上のチャートと表は、全国を100としたときの指数で千葉県を表しています。

〈調査結果（全国）の概要〉

- 聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることはできている。
- 情報と情報との関係について理解することに課題がある。

〈課題がみられる設問〉

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容			評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)				
		知識及び技能		思考力、判断力、表現力等	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	千葉県(公立)	全国(公立)	全国との差	千葉県(公立)	全国(公立)	全国との差		
		(1) 関連する事項	(2) 事項の扱いに関する事項	(3) 我が国の言語文化に関する事項													A 話すこと・聞くこと	B 書くこと
1二	意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる		1ア				○			○			64.4	65.1	-0.7	0.2	0.2	0.0
1四	聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができるかどうかをみる			1エ			○			○			81.1	82.5	-1.4	12.0	10.8	1.2
2二	観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかどうかをみる					2エ	○			○			63.4	63.0	0.4	0.5	0.4	0.1
2四	文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかをみる		2エ			2オ	○	○		○			65.9	67.5	-1.6	4.0	3.9	0.1
3一	読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる			1エ			○			○			54.0	54.3	-0.3	0.6	0.6	0.0
3二	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる		2ウ				○			○			42.3	43.9	-1.6	11.6	10.7	0.9
3三	具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる		2ア				○			○			62.1	61.8	0.3	2.4	2.1	0.3
3四	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる			1ウ			○			○			72.5	72.1	0.4	10.4	10.2	0.2
4三	文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる					1エ	○			○			48.3	50.0	-1.7	21.9	20.7	1.2

- ※課題となる設問とした基準
- ・平均正答率 70%未満の設問
 - ・全国との差が 5%以上の設問
 - ・無解答率が 10%以上の設問

〈調査結果（千葉県）の詳細〉

- 平均正答率は全国平均に比べ 0.8 ポイント低い状況である。前回（令和 4 年度）の平均正答率は全国平均に比べ 1.0 ポイント低い状況であった。正答数の分布は、全国との状況と同様である。
- 〈領域別〉
- 全国平均を 100 としたときの指数に比べ「我が国の言語文化に関する事項」は 2.4 ポイント低い状況である。
- 聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることに課題がある。（設問 1 四）
- 文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることに課題がある。（設問 2 四）
- 文脈に即して漢字を正しく書くことに課題がある。（設問 3 二）
- 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことに課題がある。（設問 3 四）
- 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることに課題がある。（設問 4 三）
- 〈問題形式別〉
- 全国平均を 100 としたときの指数に比べ「選択式」は 0.4 ポイント高く、「短答式」は 2.0 ポイント低く、「記述式」は 1.6 ポイント低い状況である。「記述式」は、無解答率が全国と比較してやや高い状況である。

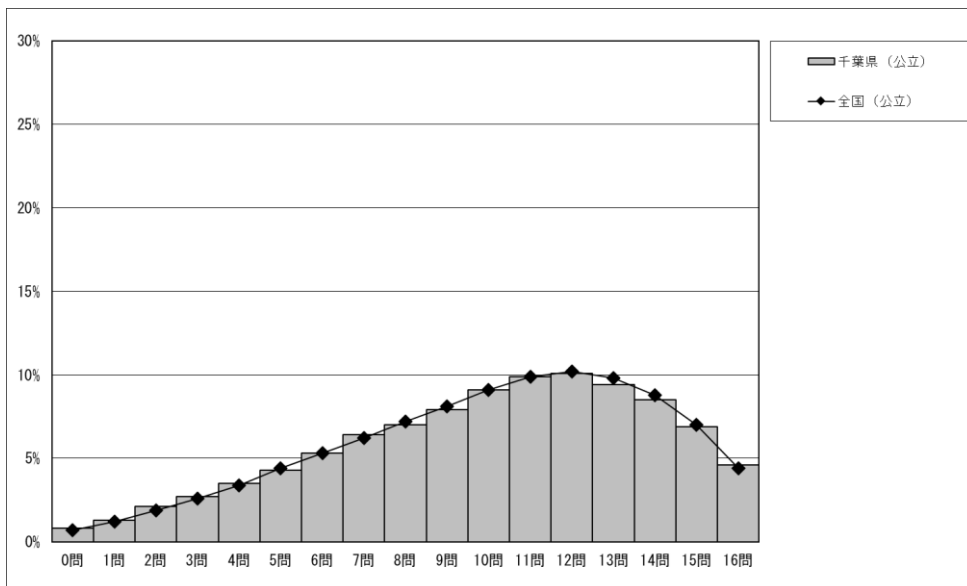
(3) 【小学校算数】

〈分類・区分別集計結果〉

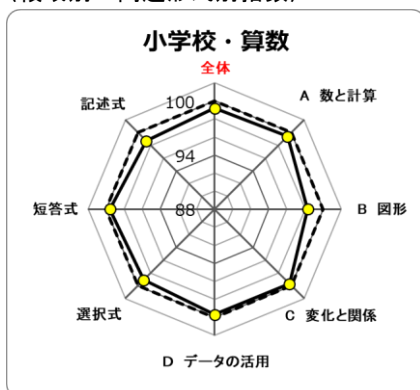
分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
			千葉県(公立)	全国(公立)
全体		16	62	62.5
学習指導要領 の領域	A 数と計算	6	66.9	67.3
	B 図形	4	47.4	48.2
	C 測定	0		
	C 変化と関係	4	70.7	70.9
	D データの活用	3	65.3	65.5
評価の観点	知識・技能	9	66.8	67.2
	思考・判断・表現	7	56.0	56.5
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	5	57.2	57.7
	短答式	7	74.4	74.7
	記述式	4	46.7	47.3

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
千葉県(公立)	48,041	9.9 / 16	62	10.0	3.8
全国(公立)	964,350	10.0 / 16	62.5	11.0	3.8

〈小学校算数の生徒の正答数分布グラフ〉



〈領域別・問題形式別指数〉



小学校・算数		
領域	全体	99.2
	A 数と計算	99.4
	B 図形	98.3
	C 測定	
	C 変化と関係	99.7
問題形式	D データの活用	99.7
	選択式	99.1
	短答式	99.6
	記述式	98.7

・上のチャートと表は、全国を100としたときの指数で千葉県を表しています。

〈調査結果（全国）の概要〉

- 式を日常生活に関連付けて読み取るとはできている。
 ○図形を構成する要素などに着目して、図形の性質や計量について考察することに課題がある。

〈課題がみられる設問〉

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		
		A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	態度	主体的に学習に取り組む	選択式	短答式	記述式	千葉県(公立)	全国(公立)	全国との差	千葉県(公立)	全国(公立)
1(3)	伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる				5(1) イ(ア) 5(2) イ(ア)		○					○	55.2	55.5	-0.3	3.4	3.4	0.0
2(1)	台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる		4(1) ア(イ)				○			○			58.6	59.8	-1.2	0.8	0.7	0.1
2(3)	正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる		3(1) ア(ア) 5(1) ア(イ)				○				○		25.0	24.9	0.1	4.0	3.7	0.3
2(4)	高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる		5(3) イ(ア)				○				○		19.9	20.8	-0.9	4.4	4.0	0.4
3(1)	()を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができるかどうかをみる	4(6) イ(ア)					○			○			69.4	70.3	-0.9	1.5	1.4	0.1
3(2)	示された日常生活の場면을解釈し、小数の加法と乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できるかどうかをみる	3(5) ア(イ) 4(4) ア(エ) イ(ア)					○				○		56.6	56.7	-0.1	3.9	4.0	-0.1
3(4)	(2位数)÷(1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができるかどうかをみる	3(4) イ(ア) 4(3) ア(ア)					○			○			47.7	47.6	0.1	4.1	3.9	0.2
4(1)	百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる			5(9) ア(イ)			○			○			45.8	46.0	-0.2	2.3	2.4	-0.1
4(3)	示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み取り、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる				3(1) ア(イ) イ(ア)		○				○		55.0	56.2	-1.2	15.3	13.8	1.5
4(4)	二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる				4(1) ア(ア)		○			○			64.5	64.6	-0.1	4.5	4.9	-0.4

- ※課題として取り上げた基準 ・平均正答率70%未満の設問
 ・全国との差が5%以上の設問
 ・無解答率が10%以上の設問

〈調査結果（千葉県）の詳細〉

○平均正答率は全国平均に比べ0.5ポイント低い状況である。前回（令和4年度）の平均正答率は全国平均に比べ0.2ポイント低い状況であった。正答数の分布は、全国の状況と同様である。

〈領域別〉

- 全国平均を100としたときの指数に比べ、「**図形**」は1.7ポイント低い状況である。
 ○**台形の意味や性質について理解することに課題がある。**（設問2(1)）
 ○**高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題がある。**（設問2(4)）
 ○**()を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ること**に課題がある。（設問3(1)）

○**示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み取り、見いだした違いを言葉と数を用いて記述することに課題がある。**（設問4(3)）

〈問題形式別〉

- 全国平均を100としたときの指数に比べ「**選択式**」は0.9ポイント低く、「**短答式**」は0.4ポイント低く、「**記述式**」は1.3ポイント低い状況である。

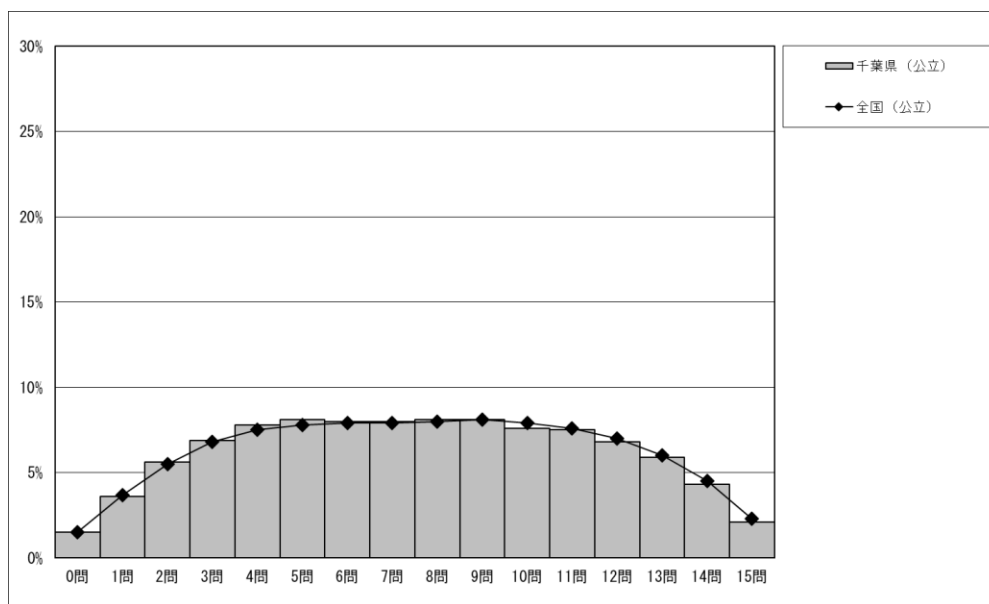
(4) 【中学校数学】

〈分類・区分別集計結果〉

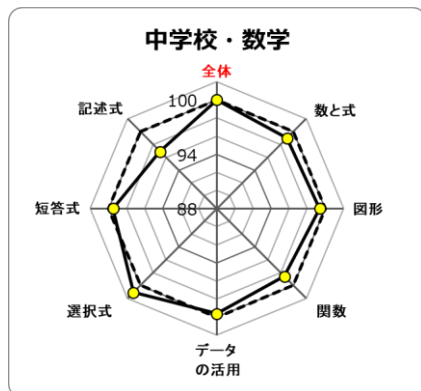
分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
			千葉県(公立)	全国(公立)
全体		15	51	51.0
学習指導要領 の領域	A 数と式	5	62.4	63.0
	B 図形	3	33.0	33.2
	C 関数	4	50.5	51.2
	D データの活用	3	48.3	48.5
評価の観点	知識・技能	10	55.7	55.7
	思考・判断・表現	5	40.3	41.6
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	4	45.8	45.3
	短答式	6	62.3	62.6
	記述式	5	40.3	41.6

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
千葉県(公立)	44,888	7.6 / 15	51	8.0	3.9
全国(公立)	893,114	7.6 / 15	51.0	8.0	3.9

〈中学校数学の生徒の正答数分布グラフ〉



〈領域別・問題形式別指数〉



中学校・数学		
領域	全体	100.0
	数と式	99.0
	図形	99.4
	関数	98.6
	データの活用	99.6
問題形式	選択式	101.1
	短答式	99.5
	記述式	96.9

・上のチャートと表は、全国を100としたときの指数で千葉県を表しています。

〈調査結果(全国)のポイント〉

- 基礎的・基本的な計算技能は身に付いていると考えられる。
- 問題解決の過程や結果を振り返って考察することに課題がある。

〈課題がみられる設問〉

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		
		A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	千葉県(公立)	全国(公立)	全国との差	千葉県(公立)	全国(公立)	全国との差
1	自然数の意味を理解しているかどうかをみる	1(1) ア(ア)				○			○			47.3	46.1	1.2	0.1	0.1	0.0
3	空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解しているかどうかをみる		1(2) ア(ア)			○			○			31.4	30.4	1.0	0.9	0.8	0.1
4	反比例の意味を理解しているかどうかをみる			1(1) イ(イ)		○			○			42.1	42.8	-0.7	0.6	0.5	0.1
5	累積度数の意味を理解しているかどうかをみる				1(1) ア(ア)	○				○		48.7	46.1	2.6	11.9	11.0	0.9
6 (2)	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる	2(1) イ(イ)				○				○		57.0	58.8	-1.8	11.3	10.6	0.7
6 (3)	結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明することができるかどうかをみる	2(1) イ(イ)				○				○		40.0	40.9	-0.9	26.7	24.7	2.0
7 (1)	四分位範囲の意味を理解しているかどうかをみる				2(1) ア(ア)	○				○		63.1	65.7	-2.6	6.0	5.6	0.4
7 (2)	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる				2(1) イ(イ)	○				○		33.2	33.6	-0.4	25.0	22.8	2.2
8 (1)	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうかをみる			2(1) ア(ア) イ(イ)		○				○		57.4	57.5	-0.1	9.1	8.6	0.5
8 (2)	事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することができるかどうかをみる			2(1) ア(ア) イ(イ)		○			○			62.3	61.7	0.6	1.1	1.1	0.0
8 (3)	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる			2(1) イ(イ)		○				○		40.4	42.8	-2.4	15.6	13.2	2.4
9 (1)	ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる	2(1) ア(ア)				○				○		31.1	32.1	-1.0	26.1	24.7	1.4
9 (2)	条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることができるかどうかをみる	2(2) ア(ア) イ(イ) ア(ア)				○				○		36.5	37.0	-0.5	15.3	14.2	1.1

- ※課題として取り上げた基準
- ・平均正答率 70%未満の設問
 - ・全国との差が 5%以上の設問
 - ・無解答率が 10%以上の設問

〈調査結果(千葉県)の詳細〉

○平均正答率は全国平均と同等の状況である。前回(令和4年度)の平均正答率は全国平均に比べ1.4ポイント低い状況であった。正答数の分布は、全国の状況と同様である。

〈領域別〉

○全国平均を100としたときの指数に比べ「数と式」は1.0ポイント低く、「関数」は1.4ポイント低い状況である。

○結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明することに課題がある。(設問6(3))

○四分位範囲の意味を理解することに課題がある。(設問7(1))

○複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。(設問7(2))

○事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。(設問8(3))

○ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することに課題がある。(設問9(1))

〈問題形式別〉

○全国平均を100としたときの指数に比べ「選択式」は1.1ポイント高く、「短答式」は0.5ポイント低く、「記述式」は3.1ポイント低い状況である。「記述式」は、全国と比較して無解答率が高い状況である。

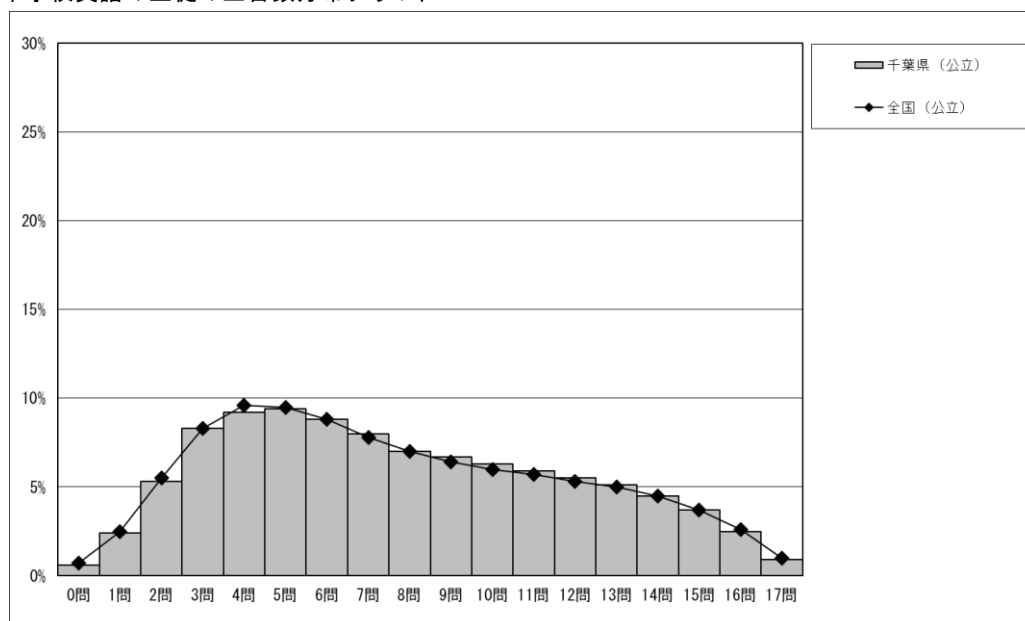
(5) 【中学校英語】

〈分類・区別集計結果〉

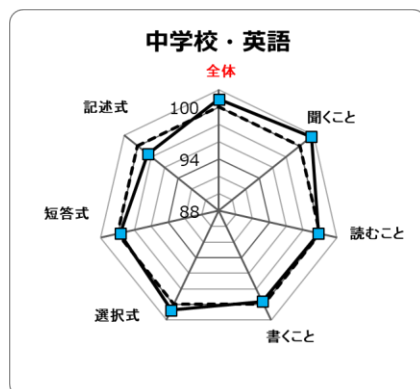
分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
			千葉県(公立)	全国(公立)
全体		17	46	45.6
学習指導要領 の領域	(1) 聞くこと	6	59.4	58.4
	(2) 読むこと	6	51.1	51.2
	(3) 話すこと [やり取り]	0		
	(4) 話すこと [発表]	0		
	(5) 書くこと	5	23.3	23.4
評価の観点	知識・技能	9	51.8	51.5
	思考・判断・表現	8	39.1	38.8
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	12	55.2	54.8
	短答式	3	30.0	30.1
	記述式	2	13.3	13.5

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
千葉県(公立)	44,925	7.8 / 17	46	7.0	4.1
全国(公立)	893,528	7.7 / 17	45.6	7.0	4.2

〈中学校英語の生徒の正答数分布グラフ〉



〈領域別・問題形式別指数〉



中学校・英語	
領域	全体 100.9
	聞くこと 101.7
	読むこと 99.8
	話すこと [やり取り] 23.4
	話すこと [発表] 23.4
	書くこと 23.4
問題形式	選択式 100.7
	短答式 99.7
	記述式 98.5

・上のチャートと表は、全国を100としたときの指数で千葉県を表しています。

〈調査結果（全国）の概要〉

- 日常的な話題について、短い情報を正確に聞き取ったり、事実と考えを区別して読んだりすることはできている。
- 日常的な話題に関する文章の概要を捉えたり、社会的な話題について自分の考えや理由を表現したりすることに課題がある。

〈課題がみられる設問〉

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		
		(1) 聞くこと	(2) 読むこと	(3) 話すこと「やり取り」	(4) 話すこと「発表」	(5) 書くこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	千葉県(公立)	全国(公立)	全国との差	千葉県(公立)	全国(公立)	全国との差
1(2)	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	○					○			○			65.6	64.4	1.2	0.2	0.2	0.0
1(3)	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	○					○			○			51.4	49.8	1.6	0.2	0.2	0.0
2	日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	ア					○			○			63.1	61.1	2.0	0.2	0.2	0.0
3	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	ア					○			○			42.2	41.2	1.0	0.2	0.2	0.0
4	社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるかどうかをみる	ウ					○			○			55.4	54.8	0.6	0.5	0.4	0.1
5(1)	情報を正確に読み取ることができるかどうかをみる		○				○			○			57.3	56.0	1.3	0.3	0.3	0.0
5(2)	「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むことができるかどうかをみる		○				○			○			64.1	64.5	-0.4	0.3	0.3	0.0
6	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる	ア					○			○			35.4	35.9	-0.5	0.3	0.3	0.0
7(1)	文と文との関係を正確に読み取ることができるかどうかをみる		○				○			○			59.5	59.8	-0.3	0.3	0.3	0.0
7(2)	日常的な話題について、短い文章の概要を捉えることができるかどうかをみる		イ				○			○			34.9	34.7	0.2	0.8	0.7	0.1
8(1)	社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることができるかどうかをみる		ウ				○			○			55.5	56.1	-0.6	0.9	0.8	0.1
8(2)	社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる				ウ		○			○			19.6	19.5	0.1	33.1	29.3	3.8
9(1)①	未来表現 (be going to) の肯定文を正確に書くことができるかどうかをみる				ア		○			○			40.8	40.4	0.4	7.0	6.6	0.4
9(1)②	疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことができるかどうかをみる				ア		○			○			21.0	20.9	0.1	11.5	10.9	0.6
9(2)	「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことができるかどうかをみる				ア		○			○			28.0	29.0	-1.0	26.4	24.5	1.9
10	日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる				イ		○			○			7.0	7.4	-0.4	23.8	21.4	2.4

- ※課題として取り上げた基準
- ・平均正答率 70%未満の設問
 - ・全国との差が 5%以上の設問
 - ・無解答率が 10%以上の設問

〈調査結果(千葉県)の詳細〉

○平均正答率は全国平均に比べ0.4ポイント高い状況である。前回(平成31年度)の平均正答率は全国平均と同等の状況であった。正答数の分布は、全国の状況と同様である。

〈領域別〉

○全国平均を100としたときの指数に比べ「書くこと」は0.4ポイント低い状況である。

○日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることに課題がある。(設問6)

○社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることに課題がある。(設問8(1))

○社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことに課題がある。(設問8(2))

○「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことに課題がある。(設問9(2))

○日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことに課題がある。(設問10)

〈問題形式別〉

○全国平均を100としたときの指数に比べ「選択式」は0.7ポイント高く、「短答式」は0.3ポイント低く、「記述式」は1.5ポイント低い状況である。

4 質問紙に関する調査結果（児童生徒、学校）

- ※ 学校質問紙・児童生徒質問紙の番号に〔 〕がついているものは、中学校・生徒への質問紙番号であり、〔 〕がついていないものは小学校・児童への質問紙番号である。
- ※ 特に断りがない場合、いずれのグラフも「その他」、「無回答」の数値は表示していない。

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

○「調査対象学年の児童〔生徒〕は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか」の質問に対する肯定的回答の割合は、全国と比較すると、小学校で7.0ポイント、中学校で4.8ポイント低い。

【学校質問紙26〔26〕】

○「5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問に肯定的に回答した学校ほど各教科の平均正答率が高い。

【児童生徒質問紙33〔37〕】

○「調査対象学年の児童〔生徒〕は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」の質問に対する肯定的回答の割合が、昨年度と比較すると小学校で1.1ポイント、中学校で2.0ポイント増加しており、改善傾向にある。

【学校質問紙29〔29〕】

○「学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問に対する肯定的回答の割合が、昨年度と比較すると小学校で1.8ポイント、中学校で1.1ポイント増加している。

【児童生徒質問紙36〔40〕】

○「調査対象学年の児童〔生徒〕は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか」の質問に対する肯定的回答の割合が、全国と比較すると小学校で6.6ポイント、中学校で1.4ポイント低い。

【学校質問紙27〔27〕】

○「5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」の質問に、肯定的に回答した児童生徒ほど各教科の平均正答率が高い。

【児童生徒質問紙32〔36〕】

○「児童〔生徒〕自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか」の質問に対する肯定的回答の割合は、昨年度と比較すると、小学校で6.9ポイント、中学校で4.2ポイント高くなっているが、全国と比較すると小学校で2.4ポイント、中学校で8.8ポイント低い。

【学校質問紙23〔23〕】

○「調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、授業において、児童〔生徒〕自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか」の質問に対し、「よく行った」と回答した割合は、全国と比較すると小学校で7.4ポイント、中学校で3.8ポイント低い。

【学校質問紙33〔33〕】

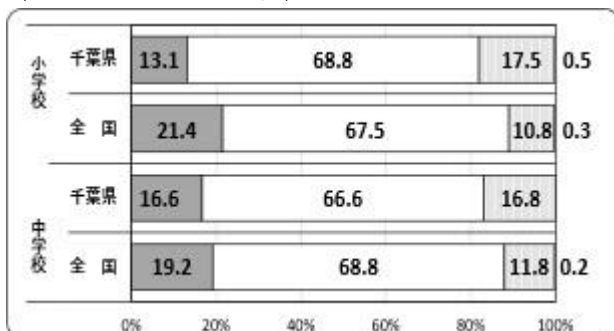
○「調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか」の質問に対する肯定的回答の割合は、全国と比較すると、小学校では、2.2ポイント低く、中学校では、0.2ポイント低い。

【学校質問紙34〔34〕】

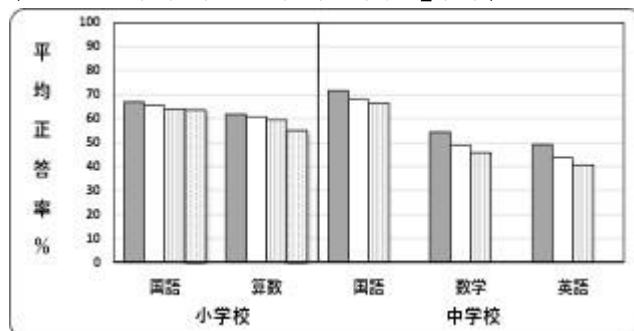
【学校質問紙26〔26〕】調査対象学年の児童〔生徒〕は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

■ そう思う □ どちらかといえば、そう思う ▨ どちらかといえば、そう思わない ▩ そう思わない

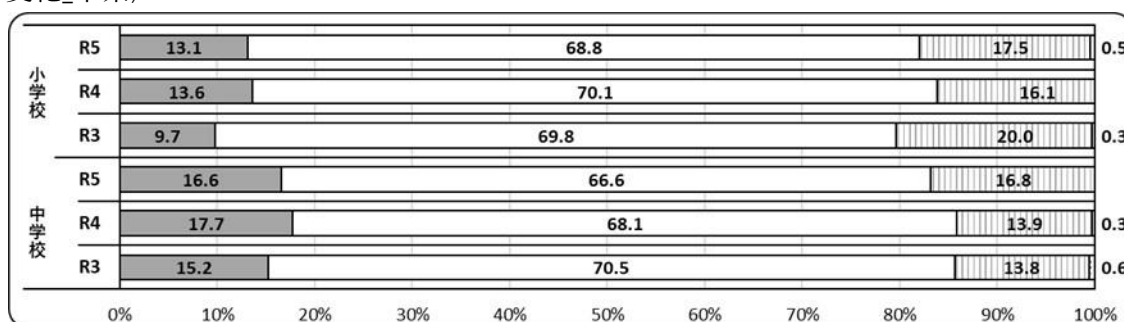
〈R5 全国との比較〉



〈R5 回答結果と正答率の関連_本県〉



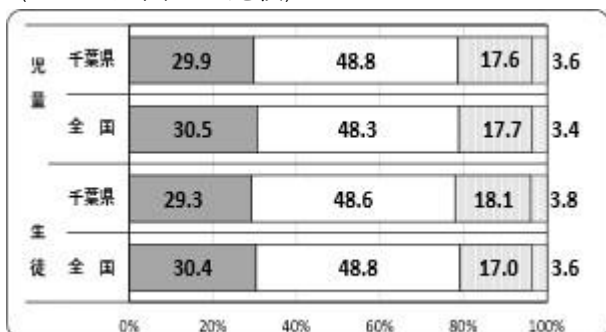
〈経年変化_本県〉



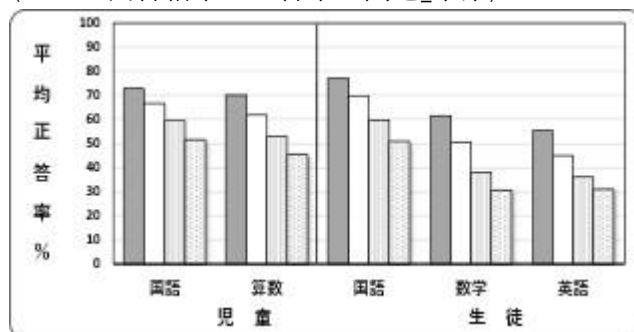
【児童生徒質問紙33〔37〕】5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

■ 当てはまる □ どちらかといえば、当てはまる ▨ どちらかといえば、当てはまらない ▩ 当てはまらない

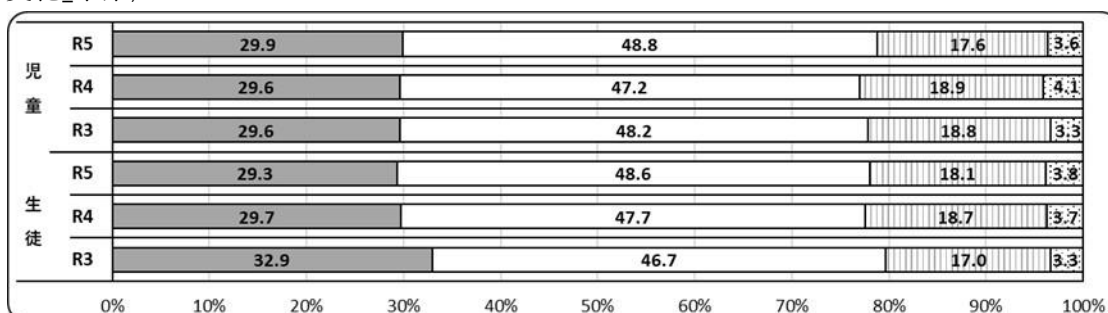
〈R5 全国との比較〉



〈R5 回答結果と正答率の関連_本県〉



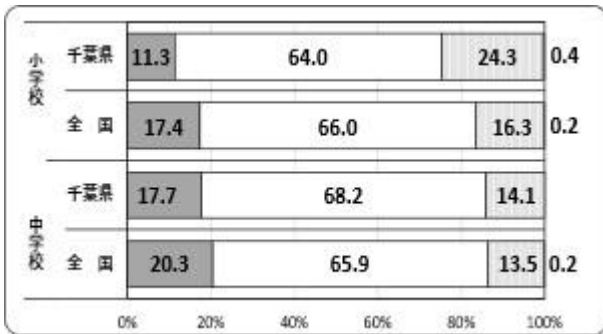
〈経年変化_本県〉



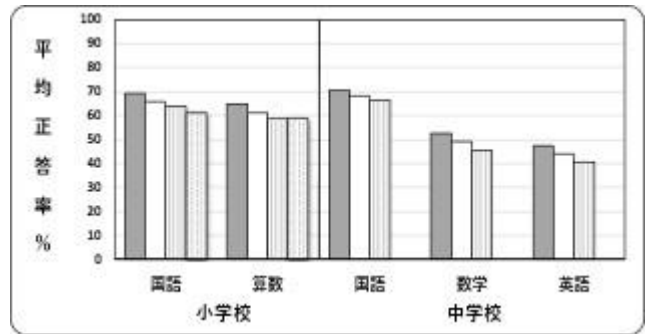
【学校質問紙29〔29〕】調査対象学年の児童〔生徒〕は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか

■ そう思う □ どちらかといえば、そう思う ▨ どちらかといえば、そう思わない ▩ そう思わない

〈R5 全国との比較〉



〈R5 回答結果と正答率の関連_本県〉



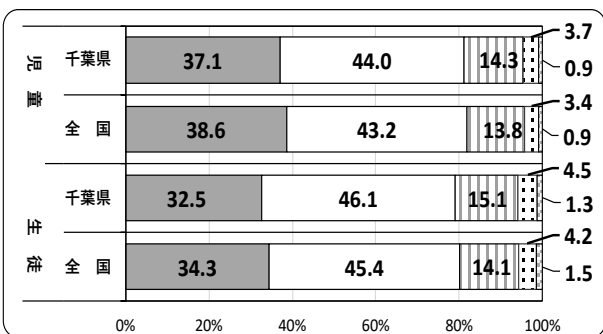
〈経年変化_本県〉



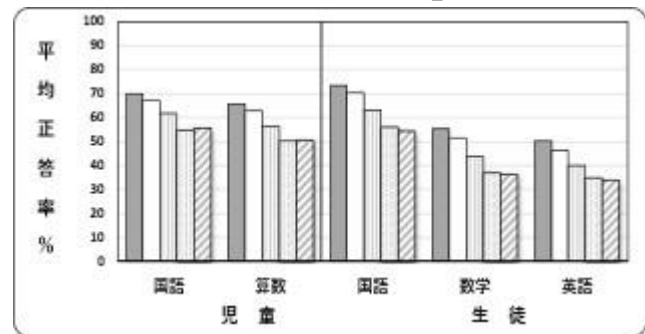
【児童生徒質問紙36〔40〕】学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか

■ 当てはまる □ どちらかといえば、当てはまる ▨ どちらかといえば、当てはまらない ▩ 当てはまらない
▨ 学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を行っていない

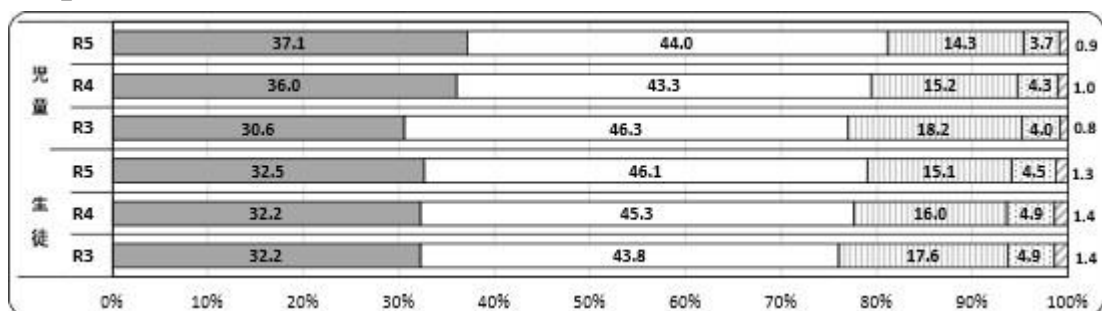
〈R5 全国との比較〉



〈R5 回答結果と正答率の関連_本県〉



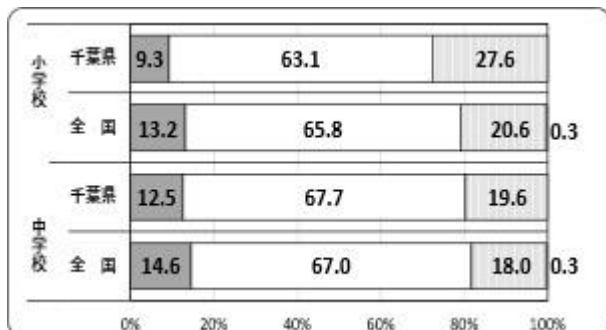
〈経年変化_本県〉



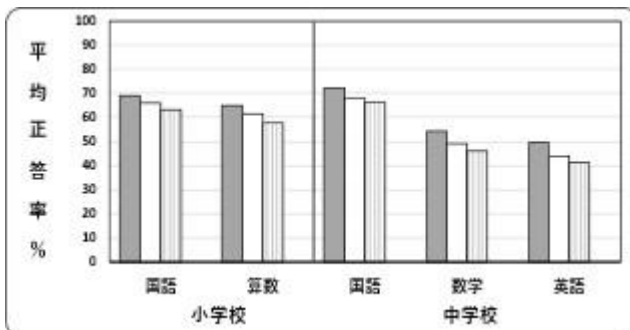
【学校質問紙 27〔27〕】 調査対象学年の児童〔生徒〕は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか

■ そう思う □ どちらかといえば、そう思う ▨ どちらかといえば、そう思わない ▩ そう思わない

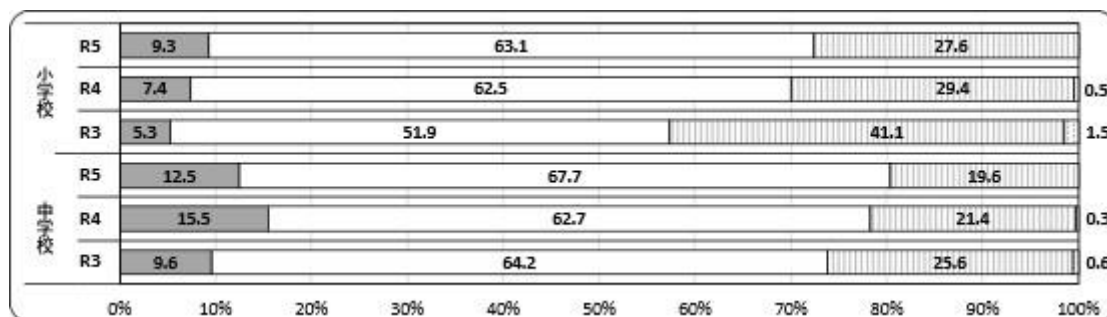
〈R 5 全国との比較〉



〈R 5 回答結果と正答率の関連_本県〉



〈経年変化_本県〉



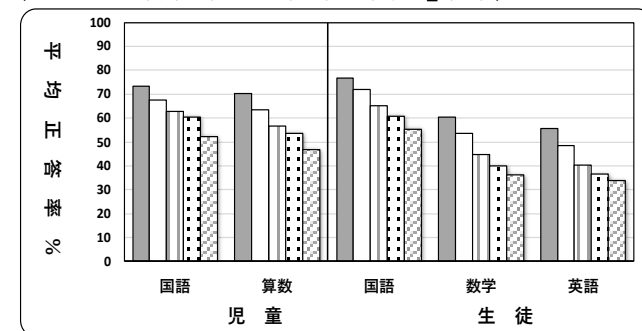
【児童生徒質問紙 32〔36〕】 5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか

■ 発表していた □ どちらかといえば、発表していた ▨ どちらかといえば、発表していなかった ▩ 発表していなかった ▧ 考えを発表する機会はなかった

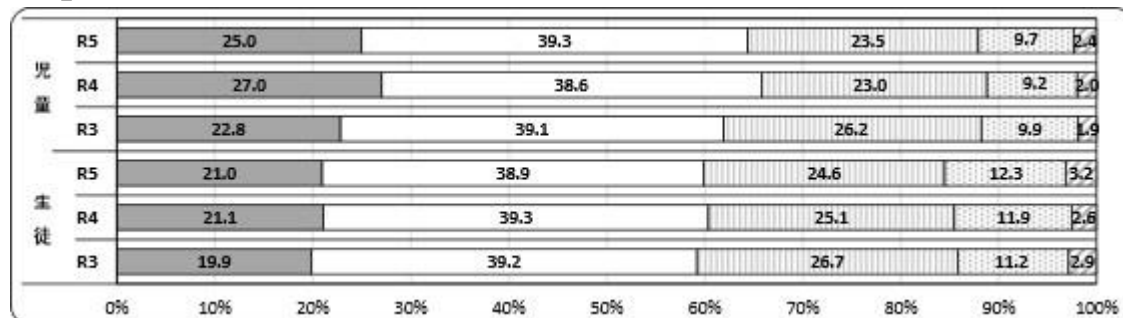
〈R 5 全国との比較〉



〈R 5 回答結果と正答率の関連_本県〉



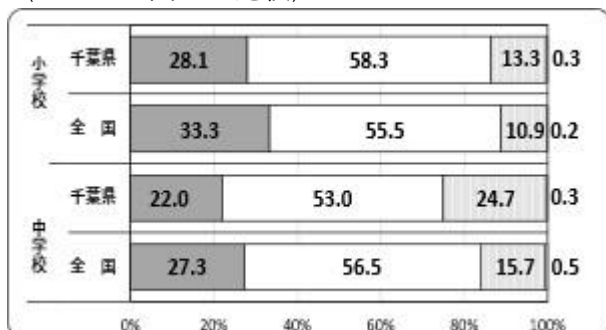
〈経年変化_本県〉



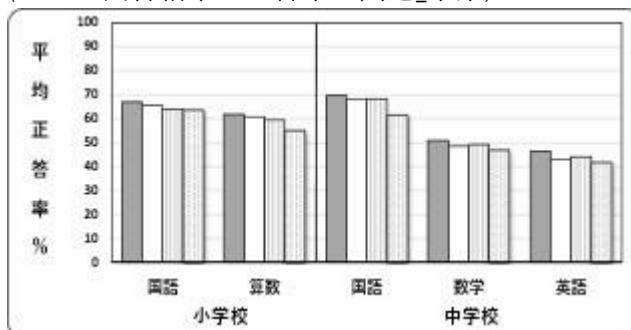
【学校質問紙23〔23〕】児童〔生徒〕自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか

よくしている
 どちらかといえば、している
 あまりしていない
 全くしていない

〈R5 全国との比較〉



〈R5 回答結果と正答率の関連_本県〉



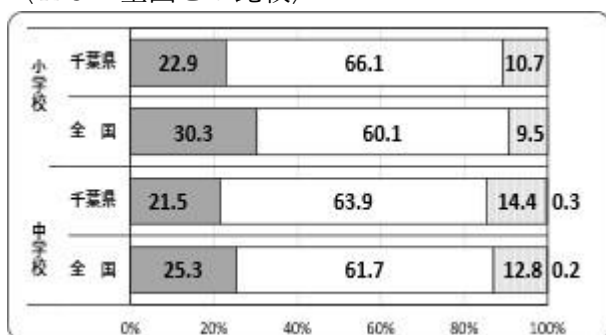
〈経年変化_本県〉



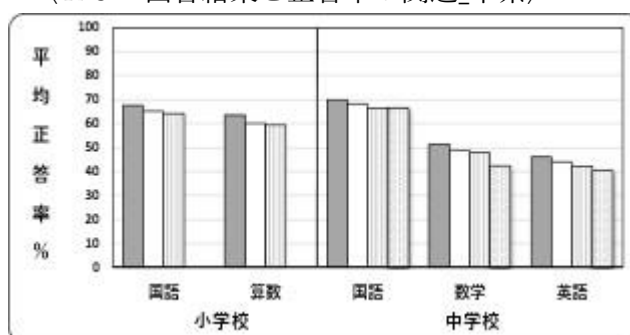
【学校質問紙33〔33〕】調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、授業において、児童〔生徒〕自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか

よく行った
 どちらかといえば、行った
 あまり行わなかった
 全く行わなかった

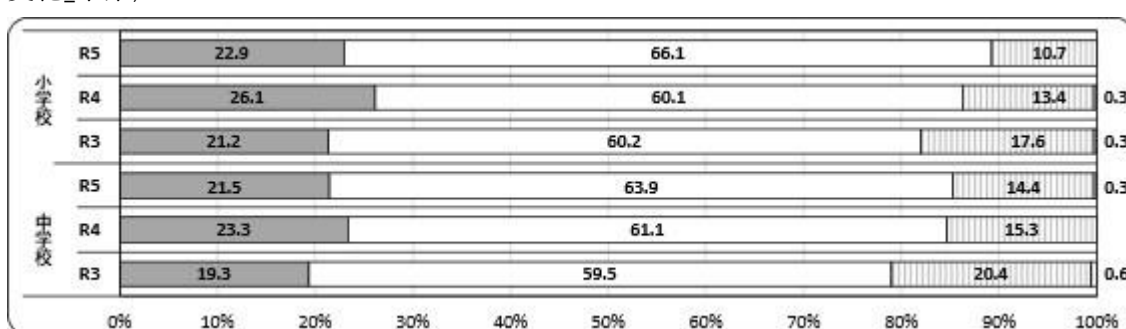
〈R5 全国との比較〉



〈R5 回答結果と正答率の関連_本県〉



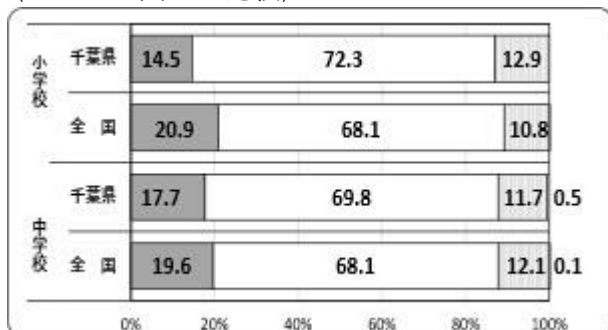
〈経年変化_本県〉



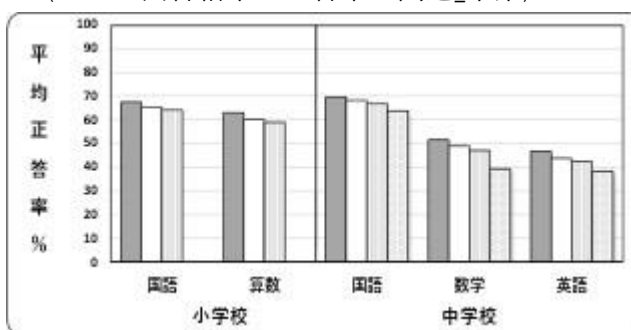
【学校質問紙34〔34〕】調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか

よく行った
 どちらかといえば、行った
 あまり行わなかった
 全く行わなかった

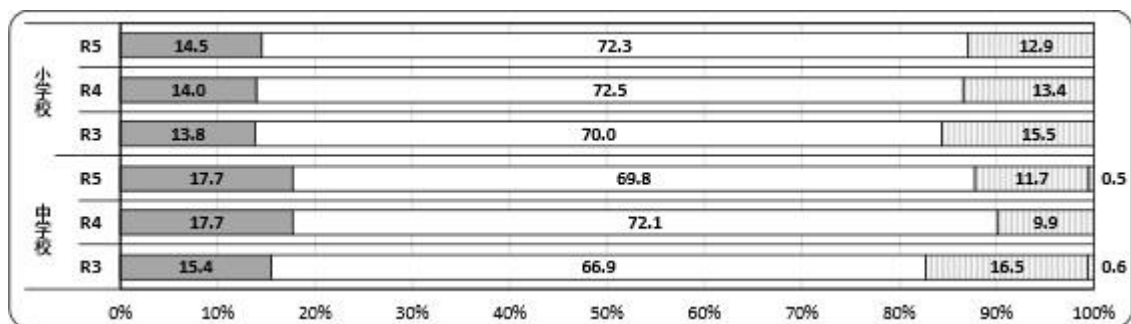
〈R5 全国との比較〉



〈R5 回答結果と正答率の関連_本県〉



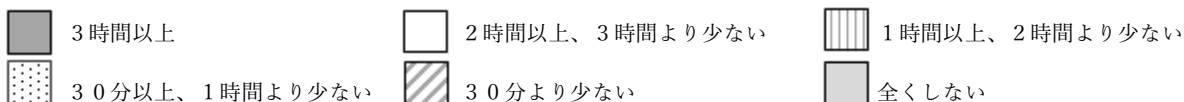
〈経年変化_本県〉



児童生徒の学習時間、教科に対する興味・関心

- 「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」
【児童生徒質問紙17〔17〕】
 - 「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」
【児童生徒質問紙18〔18〕】
- 上記2つの質問への回答結果と正答率の関連をみると、学習時間が多く確保できている児童生徒ほど各教科の平均正答率が高い。
- 「各教科（国語、算数〔数学〕、英語）の勉強は好きですか」の質問に対する肯定的回答の割合は、全国と比較すると、国語、算数〔数学〕で低く、英語では高い。
【児童生徒質問紙43〔47〕】【児童生徒質問紙51〔55〕】【児童生徒質問紙55〔59〕】
 - 「各教科の授業の内容はよく分かりますか」の質問に対する肯定的回答の割合が、全国と比較すると、英語を除き低い。
【児童生徒質問紙45〔49〕】【児童生徒質問紙53〔57〕】【生徒質問紙〔61〕】

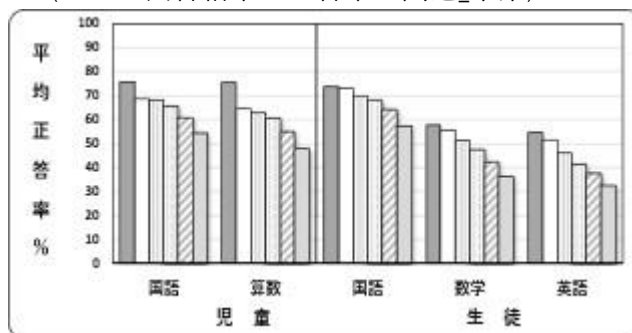
【児童生徒質問紙17〔17〕】学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



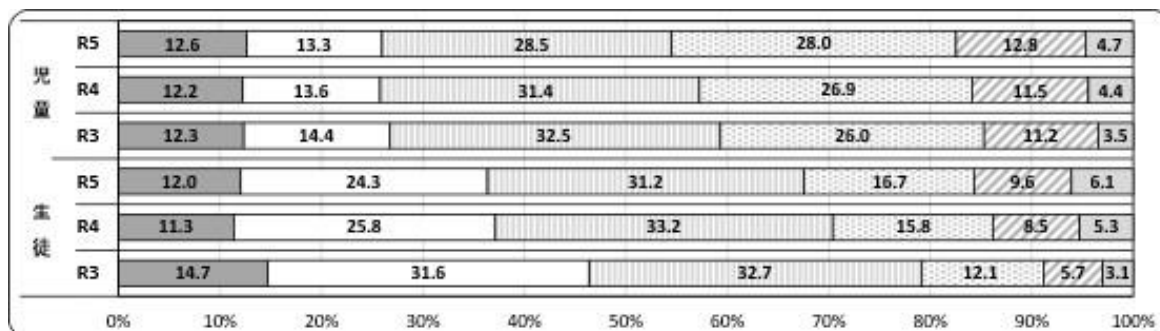
〈R5 全国との比較〉



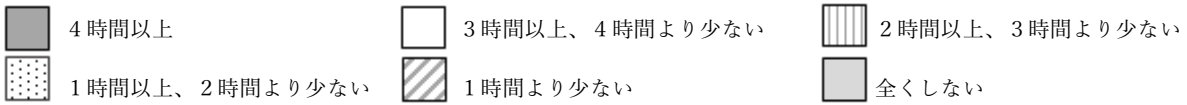
〈R5 回答結果と正答率の関連_本県〉



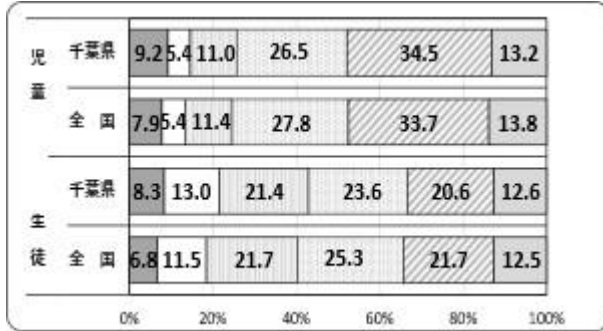
〈経年変化_本県〉



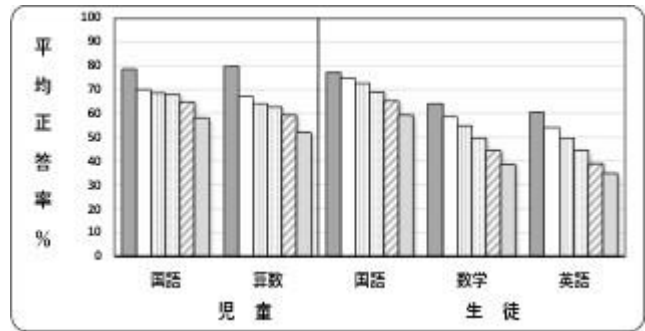
【児童生徒質問紙18〔18〕】土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



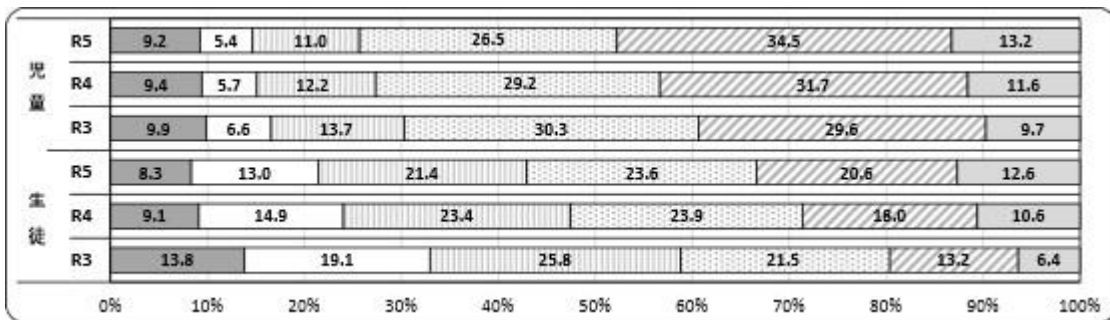
〈R5 全国との比較〉



〈R5 回答結果と正答率の関連_本県〉



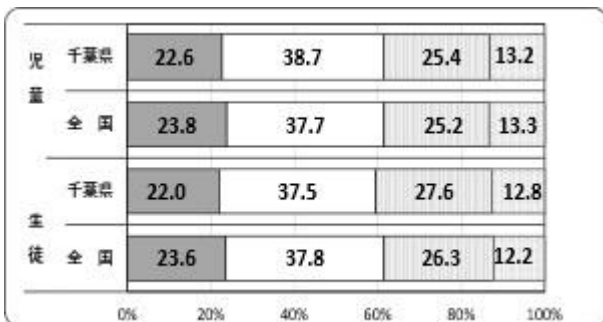
〈経年変化_本県〉



【児童生徒質問紙43〔47〕】国語の勉強は好きですか



〈R5 全国との比較〉



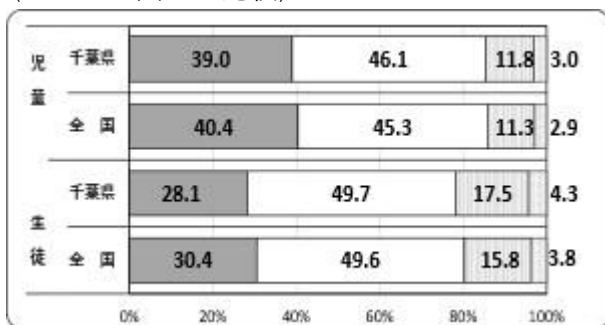
〈経年変化_本県〉



【児童生徒質問紙45〔49〕】国語の授業の内容はよく分かりますか

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

〈R5 全国との比較〉



〈経年変化_本県〉



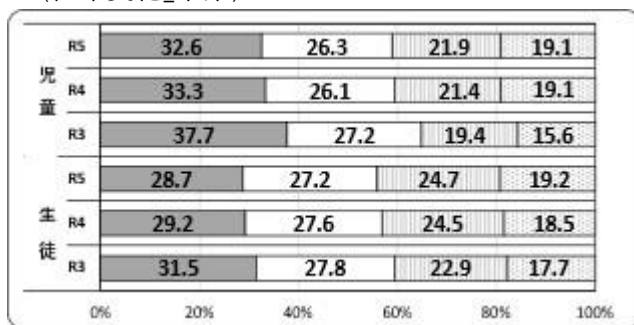
【児童生徒質問紙51〔55〕】算数〔数学〕の勉強は好きですか

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

〈R5 全国との比較〉



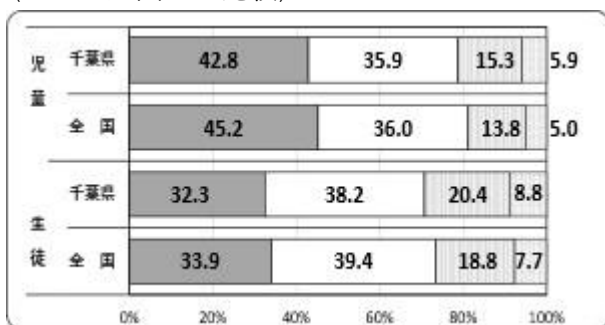
〈経年変化_本県〉



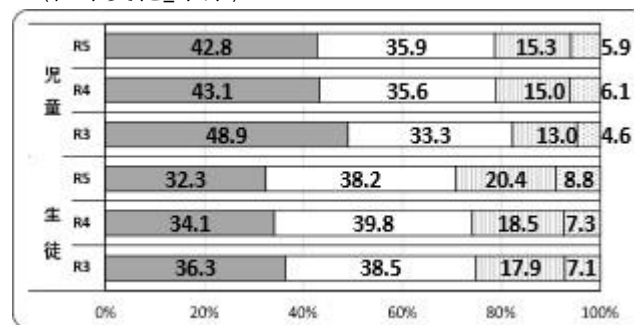
【児童生徒質問紙53〔57〕】算数〔数学〕の授業の内容はよく分かりますか

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

〈R5 全国との比較〉



〈経年変化_本県〉



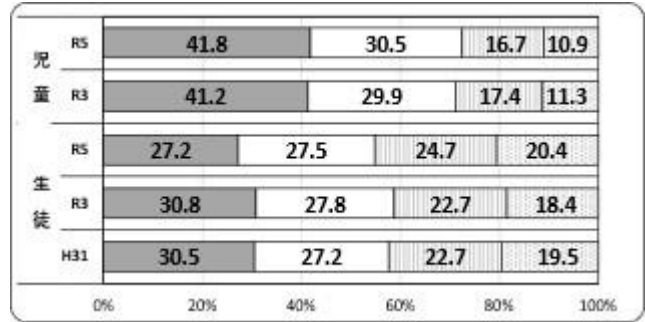
【児童生徒質問紙 5 5〔5 9〕】英語の勉強は好きですか

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

〈R 5 全国との比較〉



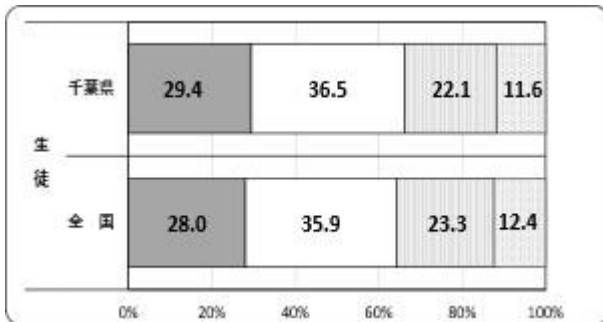
〈経年変化_本県〉



【生徒質問紙〔6 1〕】英語の授業の内容はよく分かりますか

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

〈R 5 全国との比較〉



〈経年変化_本県〉



ICTを活用した学習状況（ICTの活用頻度）

○「5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の質問に対し「ほぼ毎日」と回答した割合は、全国と比較すると小学校で7.0ポイント、中学校で10.2ポイント低い。

【児童生徒質問紙29〔33〕】

○「調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか」の質問に対し「ほぼ毎日」と回答した割合は、全国と比較すると、小学校で13.3ポイント、中学校で9.3ポイント低い。

【学校質問紙55〔63〕】

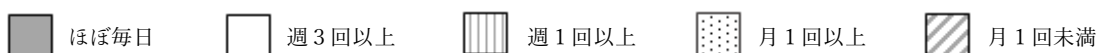
○「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の質問に対する肯定的回答の割合は、小学校中学校共に90%を超えている。

【児童生徒質問紙30〔34〕】

○「児童〔生徒〕一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか」の質問に対し、「毎日持ち帰って、毎日利用させている」「毎日持ち帰って、時々利用させている」「時々持ち帰って、時々利用させている」と回答した学校の割合は、昨年度と比べて増加して、小学校で85.2%、中学校で81.0%である。

【学校質問紙63〔71〕】

【児童生徒質問紙29〔33〕】5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



〈R5 全国との比較〉



〈経年変化_本県〉



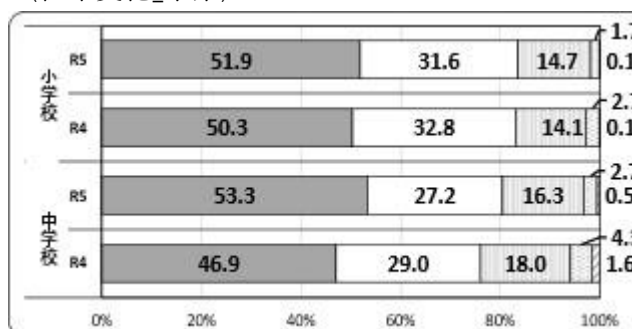
【学校質問紙55〔63〕】調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか



〈R5 全国との比較〉



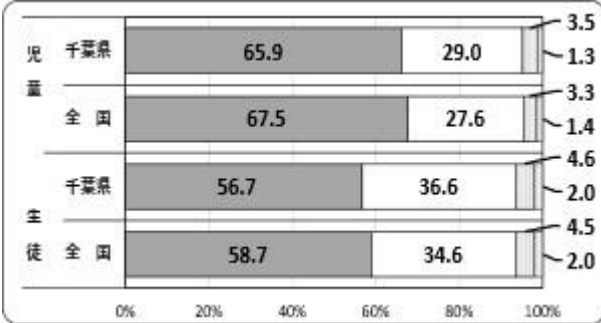
〈経年変化_本県〉



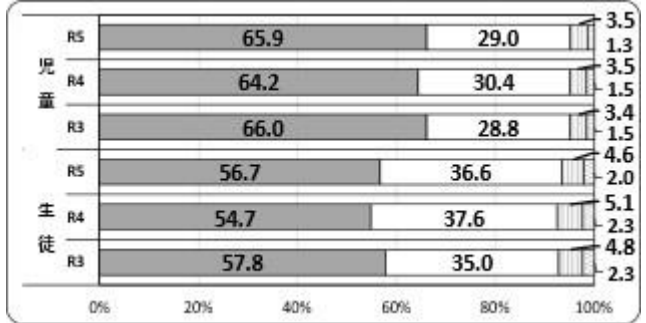
【児童生徒質問紙30〔34〕】学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか

- 役に立つと思う
- どちらかといえば、役に立つと思う
- どちらかといえば、役に立たないと思う
- 役に立たないと思う

〈R5 全国との比較〉



〈経年変化_本県〉



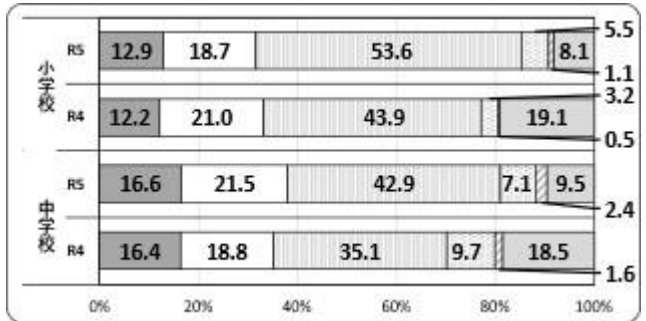
【学校質問紙63〔71〕】児童〔生徒〕一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか

- 毎日持ち帰って、毎日利用させている
- 毎日持ち帰って、時々利用させている
- 時々持ち帰って、時々利用させている
- 持ち帰らせていない
- 持ち帰ってはいけないこととしている
- 臨時休業等の非常時のみ、持ち帰ることとしている

〈R5 全国との比較〉



〈経年変化_本県〉



ICTを活用した学習状況（場面ごとの使用頻度）

○「調査対象学年の児童〔生徒〕が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、児童〔生徒〕一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか」の質問に対し「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」と回答した割合は、小学校は93.1%、中学校は91.6%である。

【学校質問紙56〔64〕】

○「教職員と調査対象学年の児童〔生徒〕がやりとりする場面では、児童〔生徒〕一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか」の質問に対し「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」と回答した割合は、全国と比較すると小学校で12.0ポイント、中学校で15.1ポイント低い。

【学校質問紙58〔66〕】

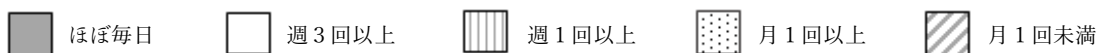
○「調査対象学年の児童〔生徒〕が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童〔生徒〕一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか」の質問に対し「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」と回答した割合は、全国と比較すると、小学校で10.9ポイント、中学校で12.8ポイント低い。

【学校質問紙57〔65〕】

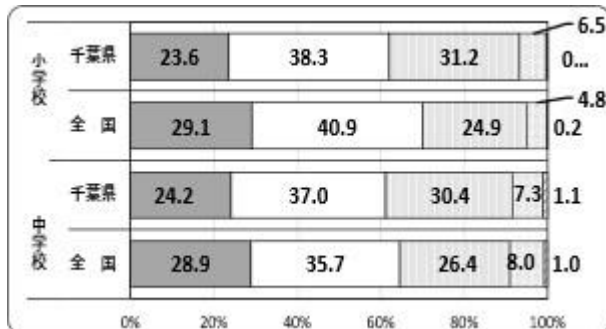
○「調査対象学年の児童〔生徒〕同士がやりとりする場面では、児童〔生徒〕一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか」の質問に対し、「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」と回答した割合は、全国と比較すると小学校で12.3ポイント、中学校で15.1ポイント低い。

【学校質問紙59〔67〕】

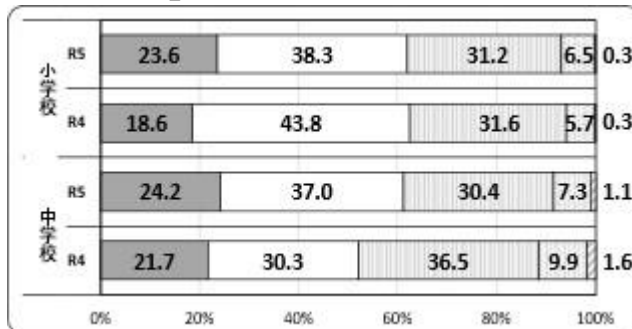
【学校質問紙56〔64〕】調査対象学年の児童〔生徒〕が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、児童〔生徒〕一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



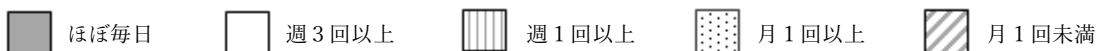
〈R5 全国との比較〉



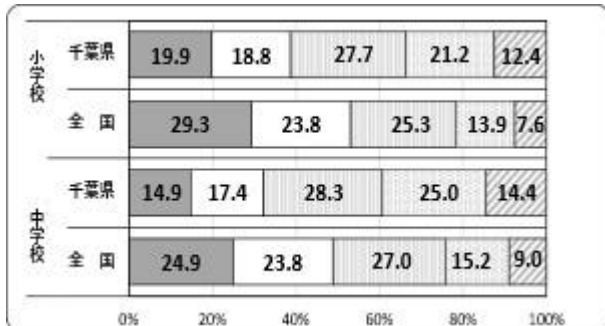
〈経年変化_本県〉



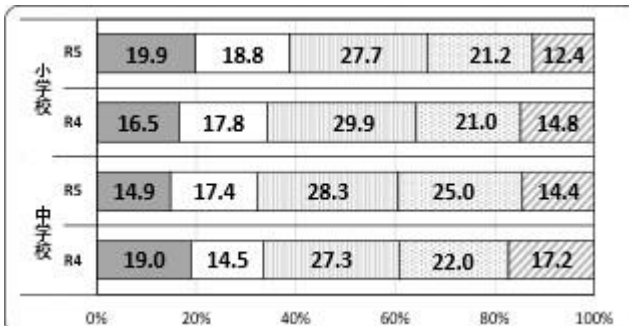
【学校質問紙 5 8〔6 6〕】教職員と調査対象学年の児童〔生徒〕がやりとりする場面では、児童〔生徒〕一人一人に配備された P C・タブレットなどの I C T機器をどの程度使用させていますか



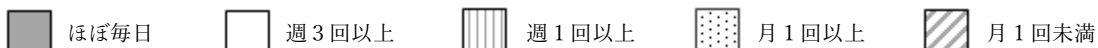
〈R 5 全国との比較〉



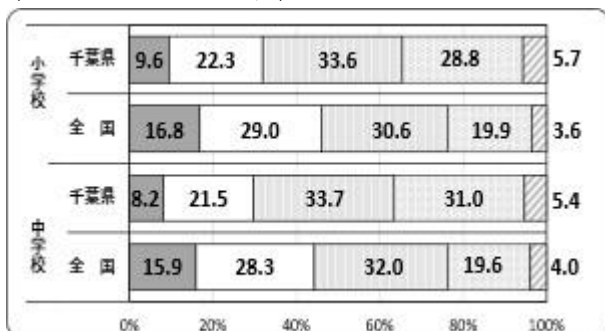
〈経年変化_本県〉



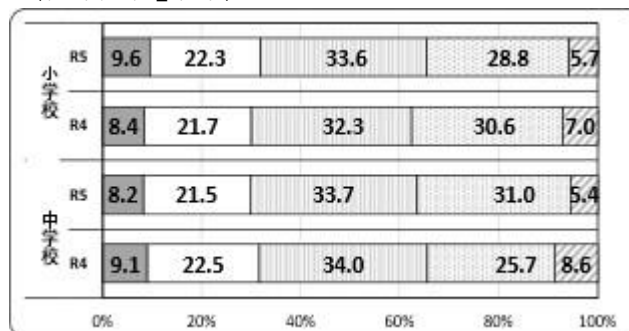
【学校質問紙 5 7〔6 5〕】調査対象学年の児童〔生徒〕が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童〔生徒〕一人一人に配備された P C・タブレットなどの I C T機器をどの程度使用させていますか



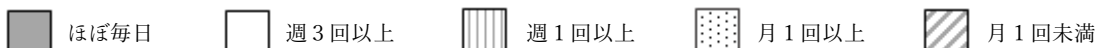
〈R 5 全国との比較〉



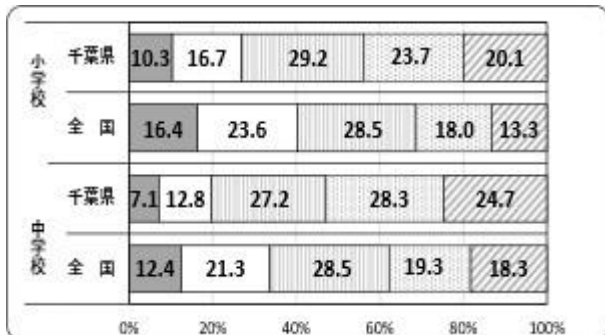
〈経年変化_本県〉



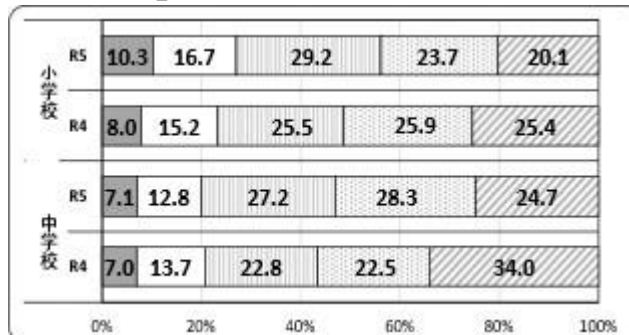
【学校質問紙 5 9〔6 7〕】調査対象学年の児童〔生徒〕同士がやりとりする場面では、児童〔生徒〕一人一人に配備された P C・タブレットなどの I C T機器をどの程度使用させていますか



〈R 5 全国との比較〉



〈経年変化_本県〉



ICTを活用した学習状況（ICTの活用を推進するための有効な取組）

○「教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか」の質問に対する肯定的回答の割合は、小学校で95.1%、中学校で84.0%である。

【学校質問紙53〔61〕】

○「コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられていますか」の質問に対する肯定的回答の割合は、小学校で88.3%、中学校で81.5%である。

【学校質問紙54〔62〕】

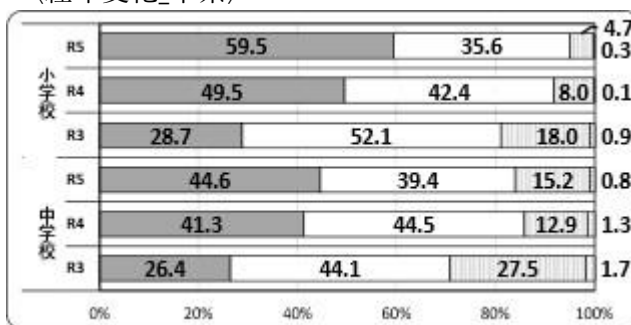
【学校質問紙53〔61〕】教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか

■ ある □ どちらかといえば、ある ▨ どちらかといえば、ない ▩ ない

〈R5 全国との比較〉



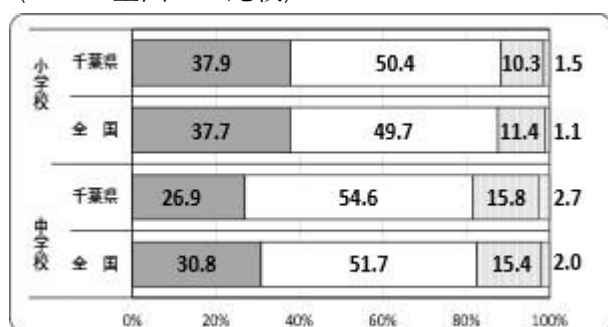
〈経年変化_本県〉



【学校質問紙54〔62〕】コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられていますか 【新規】

■ そう思う □ どちらかといえば、そう思う ▨ どちらかといえば、そう思わない ▩ そう思わない

〈R5 全国との比較〉



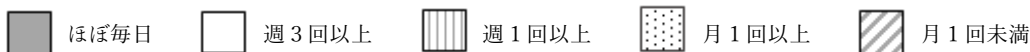
○「児童〔生徒〕一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、特別な支援を要する児童〔生徒〕に対する学習活動等の支援にどの程度活用していますか」の質問に対し「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」と回答した割合は、全国と比較すると、小学校で1.2ポイント低く、中学校で2.4ポイント高い。

【学校質問紙64-2〔72-2〕】

○「児童〔生徒〕一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、外国人児童〔生徒〕に対する学習活動等の支援にどの程度活用していますか。」の質問に対し「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」と回答した割合は、全国と比較すると、小学校で12.6ポイント、中学校で10.1ポイント高い。

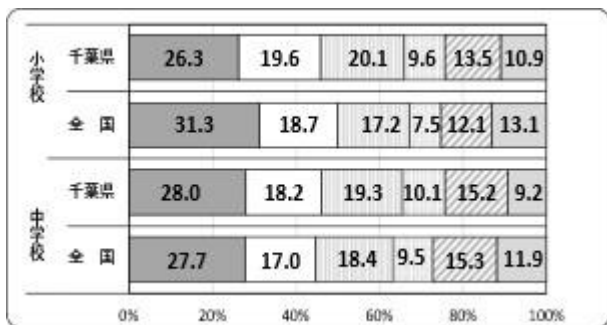
【学校質問紙64-3〔72-3〕】

【学校質問紙64-2〔72-2〕】児童〔生徒〕一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、特別な支援を要する児童〔生徒〕に対する学習活動等の支援にどの程度活用していますか

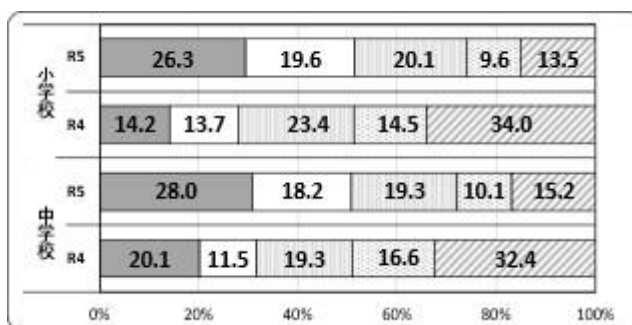


該当する児童〔生徒〕がない (light grey)

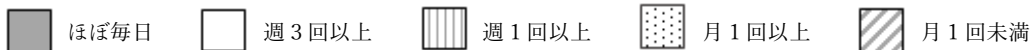
〈R5 全国との比較〉



〈経年変化_本県〉

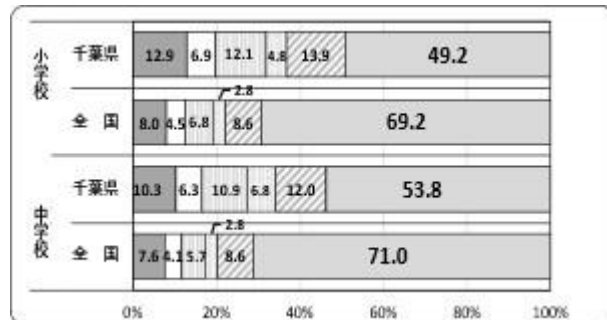


【学校質問紙64-3〔72-3〕】児童〔生徒〕一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、外国人児童〔生徒〕に対する学習活動等の支援にどの程度活用していますか 【新規】



該当する児童〔生徒〕がない (light grey)

〈R5 全国との比較〉



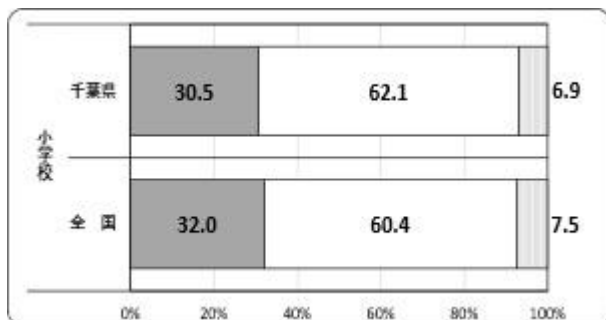
国語の授業における記述の指導と国語の平均正答率とのクロス集計

- 「調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、互いの書いた文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるような指導を行いましたか」の質問に対する、肯定的回答の割合は、92.6%で、全国と比較して同程度である。【学校質問紙44】
- 「調査対象学年の生徒に対する国語の授業において、前年度までに、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書くことができるような指導を行いましたか」の質問に対する肯定的回答の割合は、全国と比較して3.2ポイント低い。【学校質問紙〔44〕】

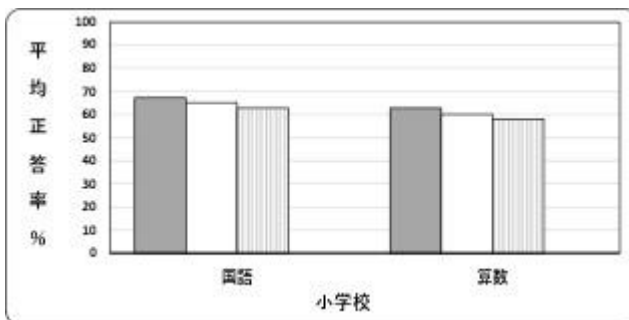
【小学校質問紙44】 調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、互いの書いた文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるような指導を行いましたか 【新規】

よく行った
 どちらかといえば、行った
 あまり行わなかった
 全く行わなかった

〈R5 全国との比較〉



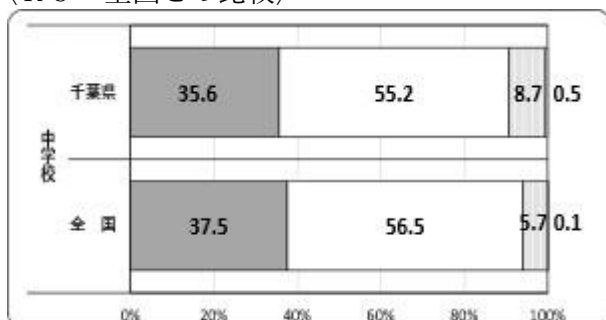
〈回答結果と正答率の関連_本県〉



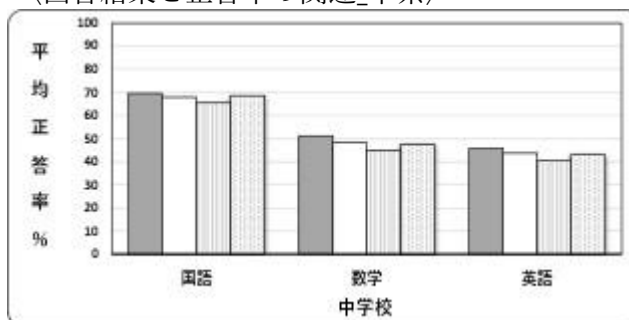
【中学校質問紙44】 調査対象学年の生徒に対する国語の授業において、前年度までに、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書くことができるような指導を行いましたか 【新規】

よく行った
 どちらかといえば、行った
 あまり行わなかった
 全く行わなかった

〈R5 全国との比較〉



〈回答結果と正答率の関連_本県〉



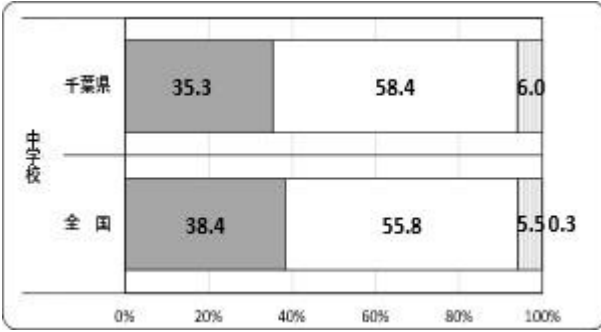
英語の授業における言語活動等の取組状況

- 「調査対象学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点を捉える言語活動を行いましたか」の質問に対する、肯定的回答の割合は、H31年度と比較すると、4.4ポイント増加した。【学校質問紙〔49〕】
- 「1、2年生のときに受けた授業では、英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか」の質問に対し、肯定的回答をした生徒の方が、正答率の高い傾向にある。【生徒質問紙〔66〕】
- 「調査対象学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点を捉える言語活動を行いましたか」の質問に対する、肯定的回答の割合は、平成31年度と比較すると、5.7ポイント増加した。【学校質問紙〔50〕】
- 「1、2年生のときに受けた授業では、英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか」の質問に対する、肯定的回答の割合は、平成31年度と比較すると、1.7ポイント増加した。【生徒質問紙〔67〕】
- 「調査対象学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、自分の考えや気持ちなどを英語で書く言語活動を行いましたか」の質問に対する、肯定的回答の割合は、平成31年度と比較すると、7.0ポイント増加した。【学校質問紙〔53〕】
- 「1、2年生のときに受けた授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思いますか」の質問に対する、肯定的回答の割合は、平成31年度と比較すると、6.4ポイント増加した。【生徒質問紙〔70〕】
- 「調査対象学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動を行いましたか」の質問に対する、肯定的回答の割合は、平成31年度と比較すると、12.7ポイント増加した。【学校質問紙〔51〕】
- 「1、2年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか」の質問に対する肯定的な回答の割合は、60.6%であった。【生徒質問紙〔68〕】
- 「調査対象学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する言語活動を行いましたか」の質問に対する肯定的な回答の割合は、86.7%であった。【学校質問紙〔52〕】
- 「1、2年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか」の質問に対する肯定的回答の割合は、平成31年度と比較すると、7.6%増加した。【生徒質問紙〔69〕】
- 「調査対象学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする言語活動を行いましたか」の質問に対する肯定的回答の割合は、平成31年度と比較すると、19.6%増加した。【学校質問紙〔55〕】
- 「1、2年生のときに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動が行われていたと思いますか」の質問に対する肯定的回答の割合は、平成31年度と比較すると、8.7%増加した。【生徒質問紙〔72〕】
- 「調査対象学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする言語活動を行いましたか」の質問に対する肯定的回答の割合は、平成31年度と比較すると、18.0%増加した。【学校質問紙〔54〕】
- 「1、2年生のときに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動が行われていたと思いますか」の質問に対する肯定的回答の割合は、平成31年度と比較すると、6.3%増加した。【生徒質問紙〔71〕】

【学校質問紙〔49〕】調査対象学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点を捉える言語活動を行いましたか

よく行った
 どちらかといえば、行った
 あまり行わなかった
 全く行わなかった

〈R5 全国との比較〉



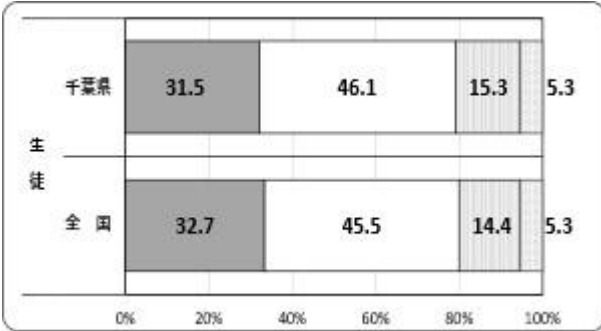
〈経年変化_本県〉



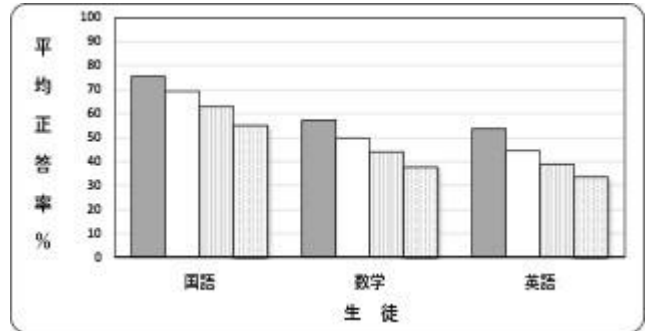
【生徒質問紙〔66〕】1、2年生のときに受けた授業では、英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

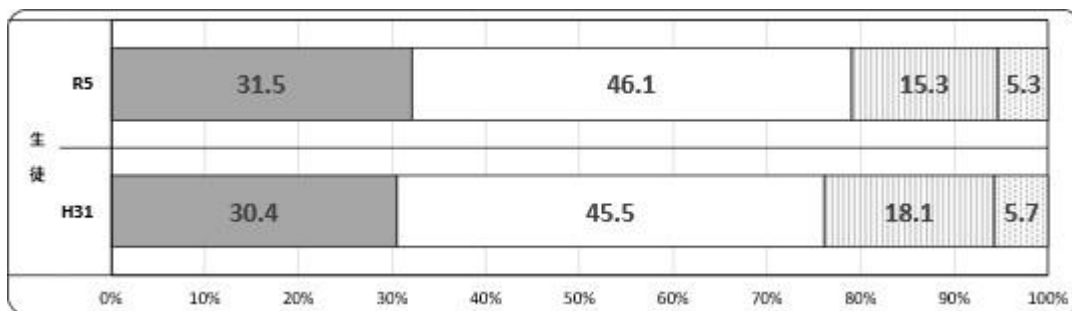
〈R5 全国との比較〉



〈回答結果と正答率の関連_本県〉



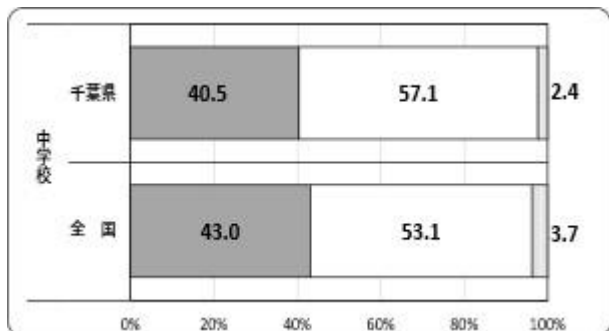
〈経年変化_本県〉



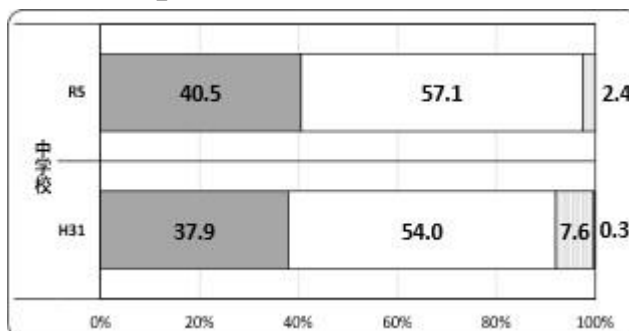
【学校質問紙〔50〕】調査対象学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点を捉える言語活動を行いましたか

よく行った
 どちらかといえば、行った
 あまり行わなかった
 全く行わなかった

〈R5 全国との比較〉



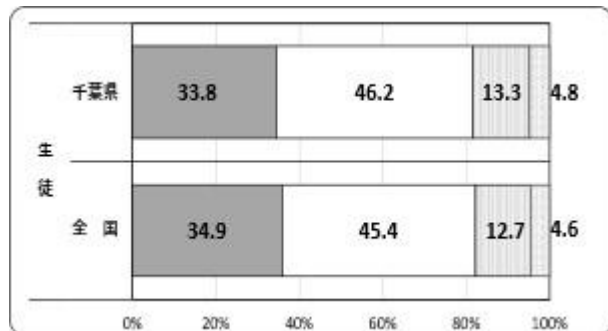
〈経年変化_本県〉



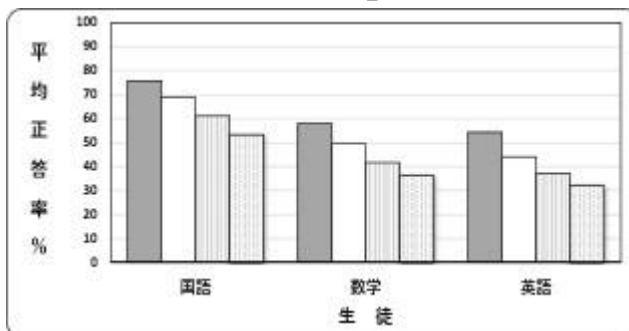
【生徒質問紙〔67〕】1、2年生のときに受けた授業では、英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

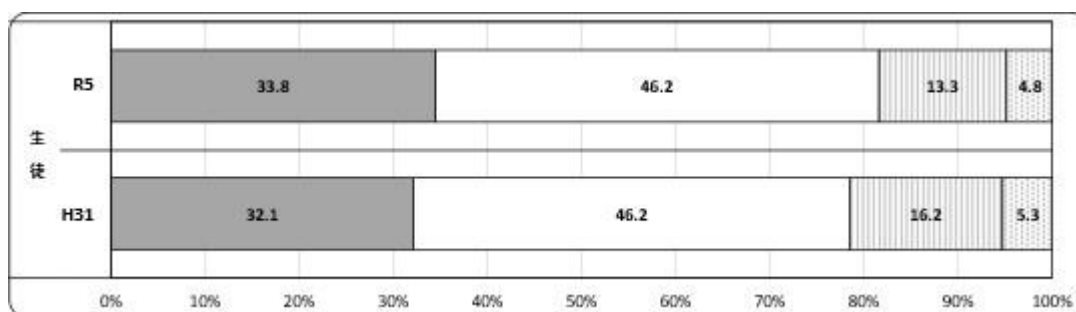
〈R5 全国との比較〉



〈回答結果と正答率の関連_本県〉



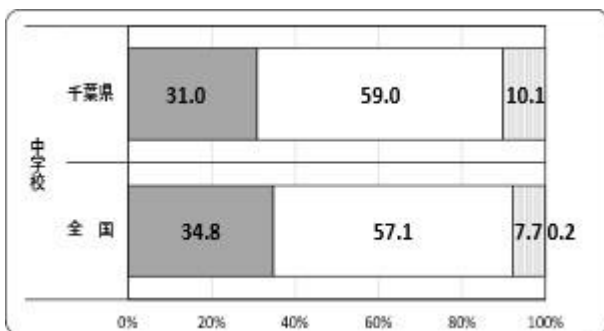
〈経年変化_本県〉



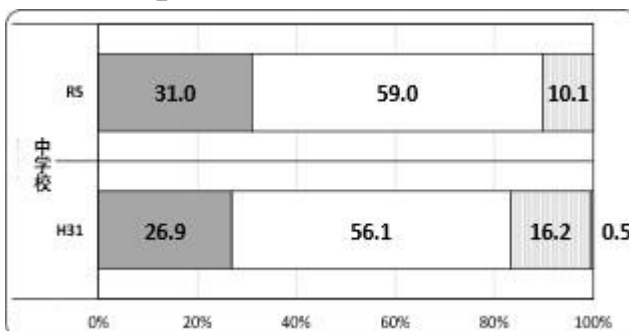
【学校質問紙〔53〕】調査対象学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、自分の考えや気持ちなどを英語で書く言語活動を行いましたか

よく行った
 どちらかといえば、行った
 あまり行わなかった
 全く行わなかった

〈R5 全国との比較〉



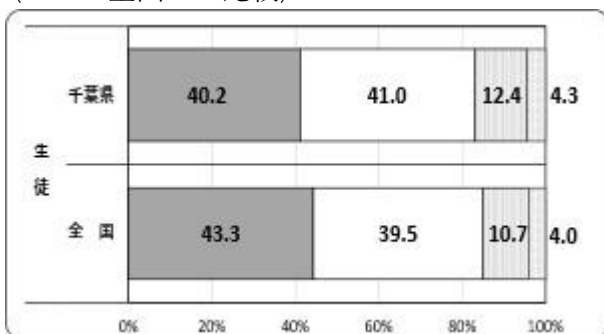
〈経年変化_本県〉



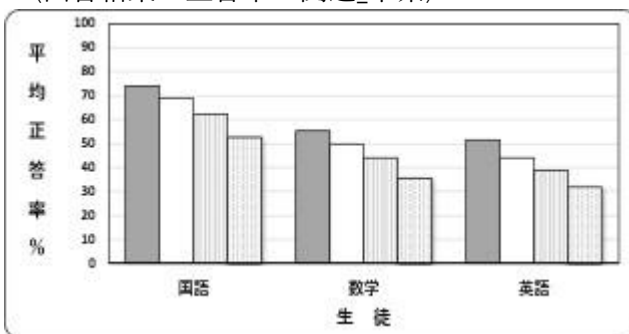
【生徒質問紙〔70〕】1、2年生のときに受けた授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思いますか

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

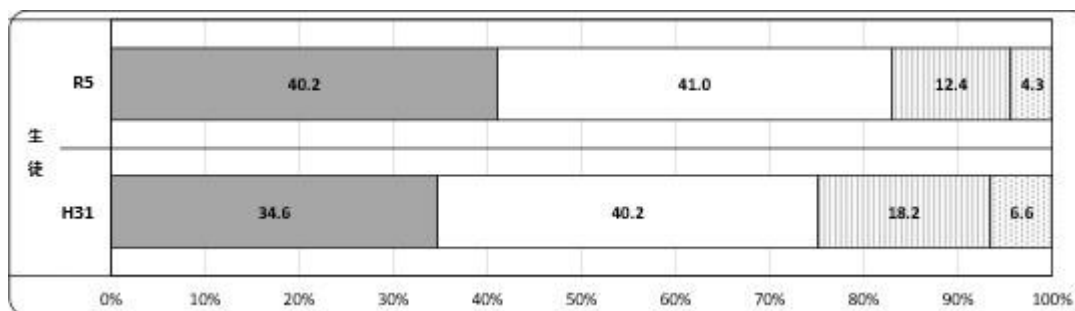
〈R5 全国との比較〉



〈回答結果と正答率の関連_本県〉



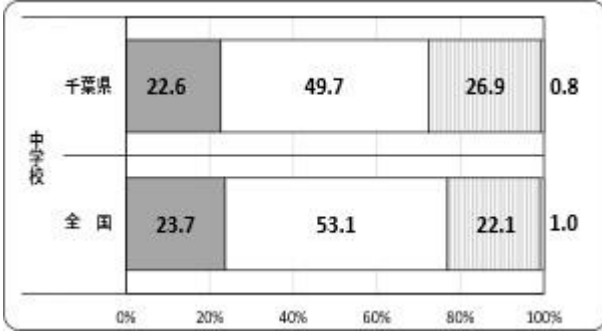
〈経年変化_本県〉



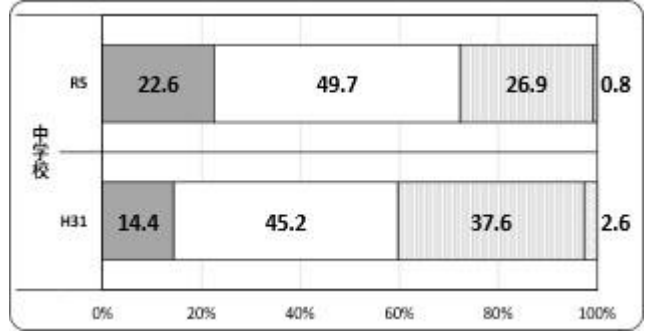
【学校質問紙〔51〕】調査対象学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動を行いましたか

よく行った
 どちらかといえば、行った
 あまり行わなかった
 全く行わなかった

〈R5 全国との比較〉



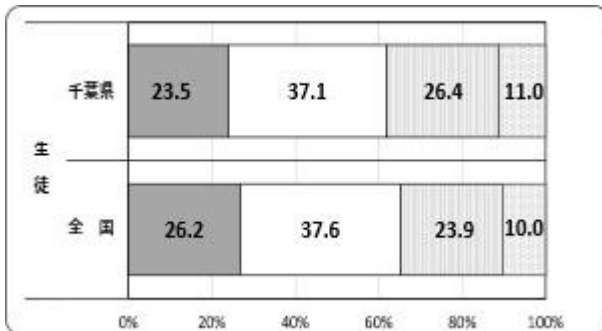
〈経年変化_本県〉



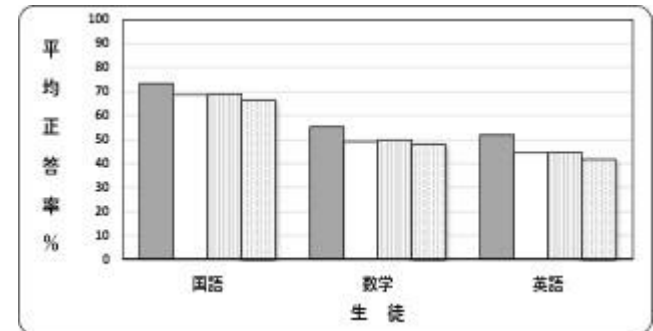
【生徒質問紙〔68〕】1、2年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

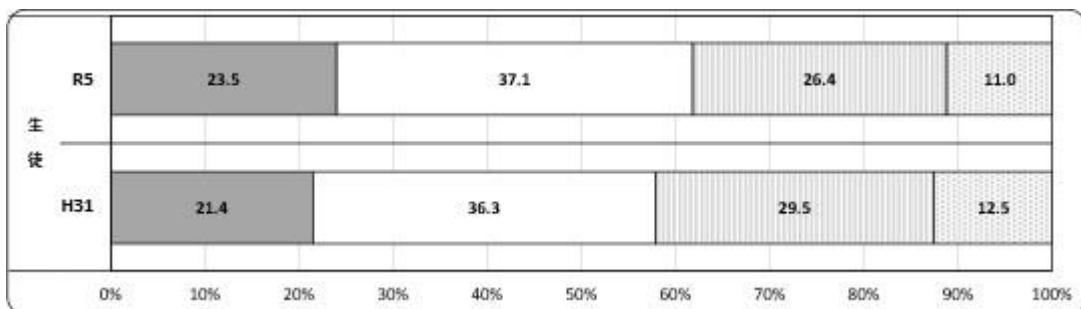
〈R5 全国との比較〉



〈回答結果と正答率の関連_本県〉



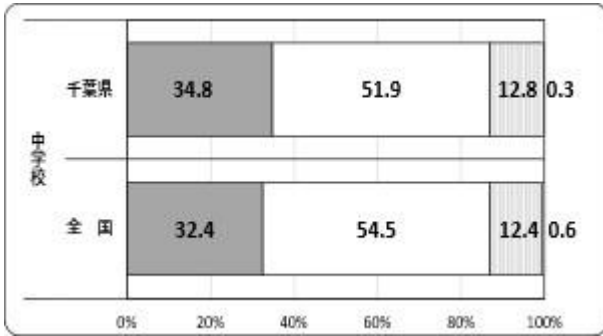
〈経年変化_本県〉



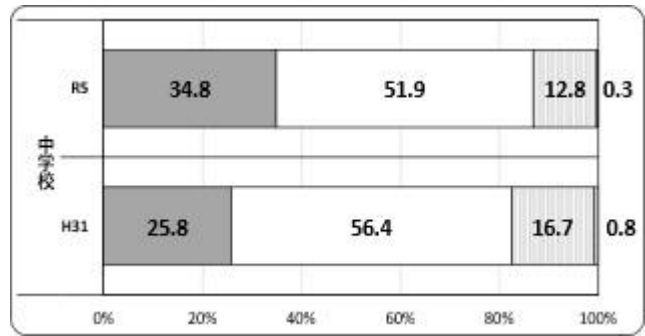
【学校質問紙〔52〕】調査対象学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する言語活動を行いましたか

よく行った
 どちらかといえば、行った
 あまり行わなかった
 全く行わなかった

〈R5 全国との比較〉



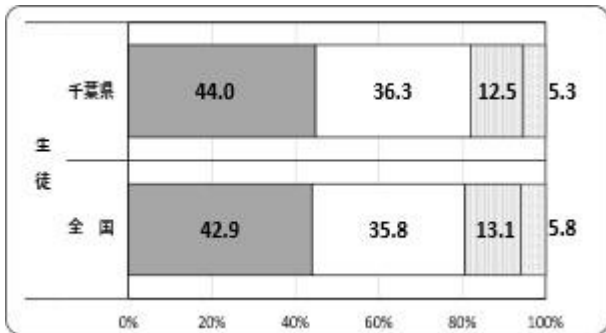
〈経年変化_本県〉



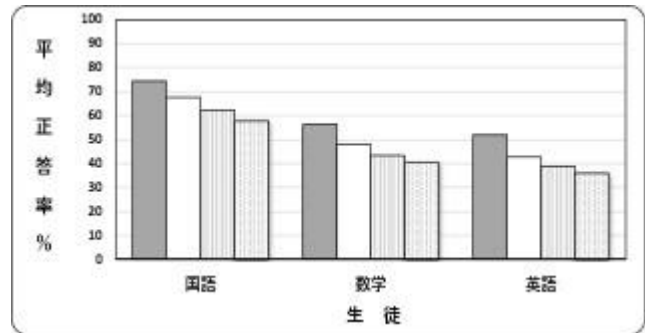
【生徒質問紙〔69〕】1、2年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

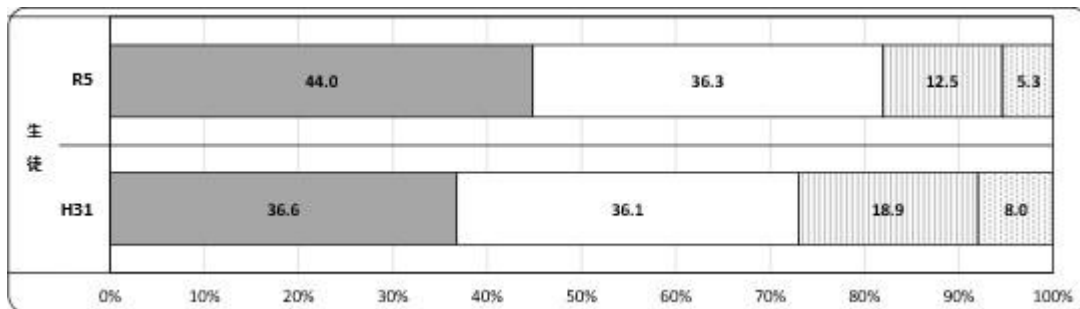
〈R5 全国との比較〉



〈回答結果と正答率の関連_本県〉



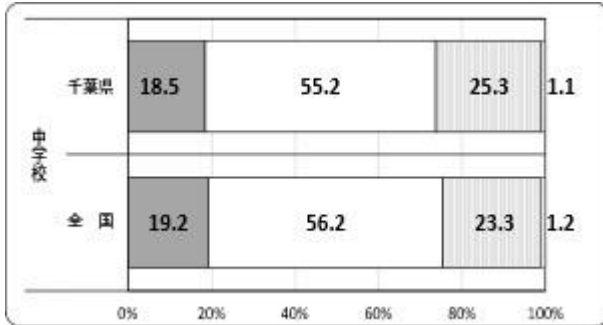
〈経年変化_本県〉



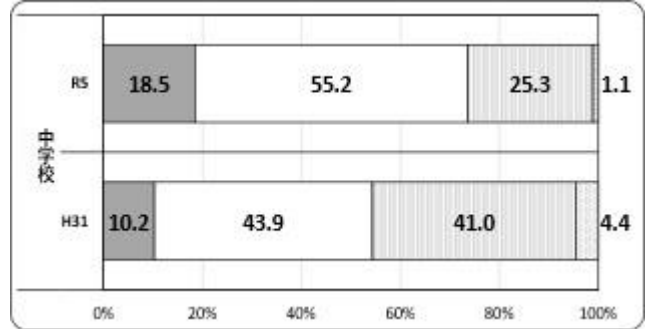
【学校質問紙〔55〕】調査対象学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする言語活動を行いましたか

よく行った
 どちらかといえば、行った
 あまり行わなかった
 全く行わなかった

〈R5 全国との比較〉



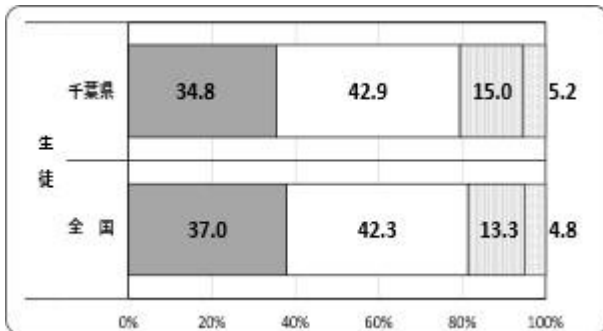
〈経年変化_本県〉



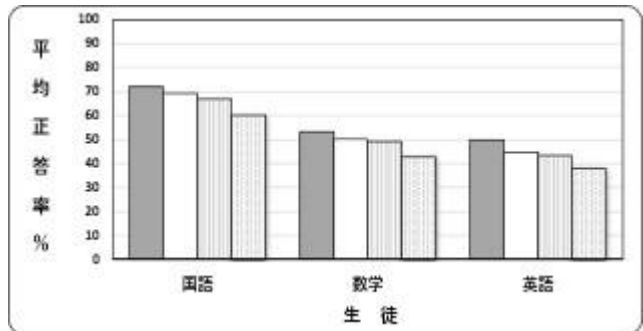
【生徒質問紙〔72〕】1、2年生のときに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動が行われていたと思いますか

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

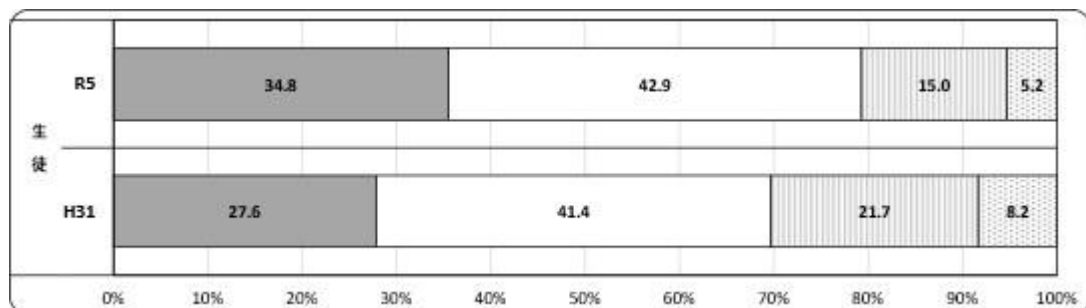
〈R5 全国との比較〉



〈回答結果と正答率の関連_本県〉



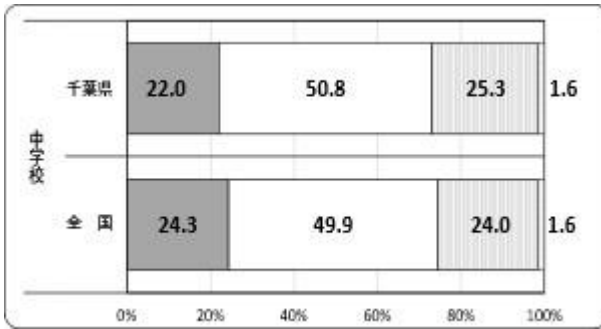
〈経年変化_本県〉



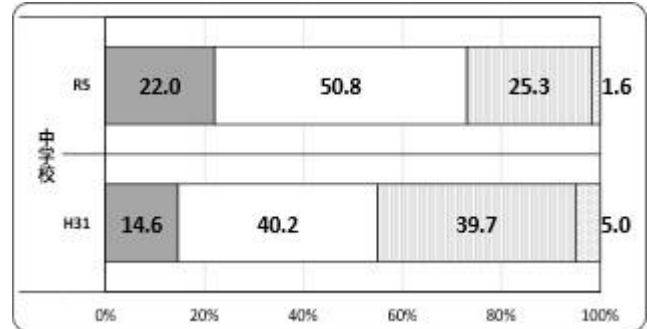
【学校質問紙〔54〕】調査対象学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする言語活動を行いましたか

よく行った
 どちらかといえば、行った
 あまり行わなかった
 全く行わなかった

〈R5 全国との比較〉



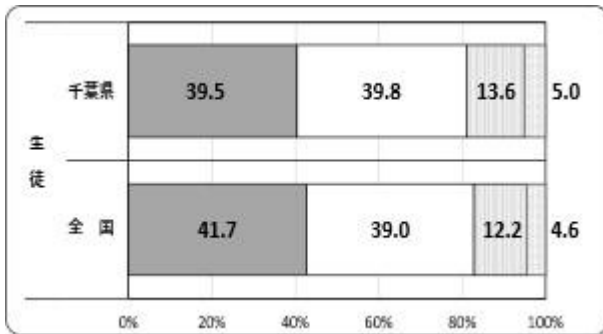
〈経年変化_本県〉



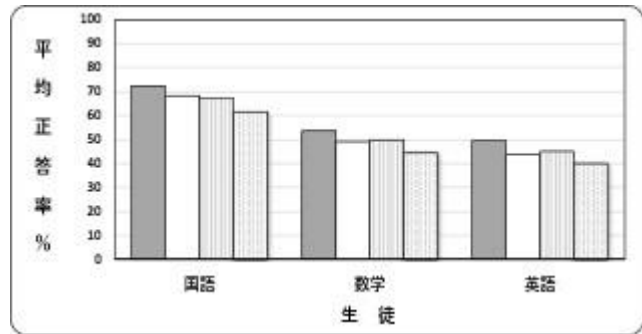
【生徒質問紙〔71〕】1、2年生のときに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動が行われていたと思いますか

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

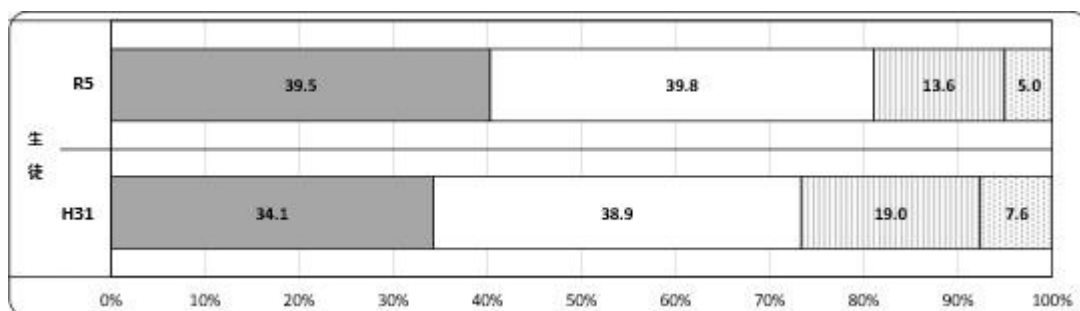
〈R5 全国との比較〉



〈回答結果と正答率の関連_本県〉



〈経年変化_本県〉



本調査の記述式問題に対する児童生徒の取組状況

○「解答を文章で書く問題について、どのように解答しましたか」

【児童生徒質問紙 国1】

○「言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く算数の問題〔言葉や数、式を使って説明する数学の問題〕について、どのように解答しましたか」

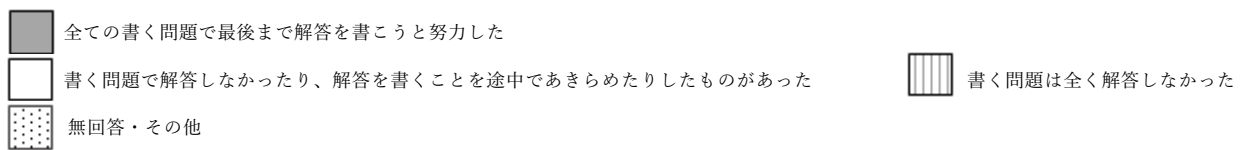
【児童質問紙 算〔数〕1】

○「まとまりのある文章を書く英語の問題について、どのように解答しましたか」

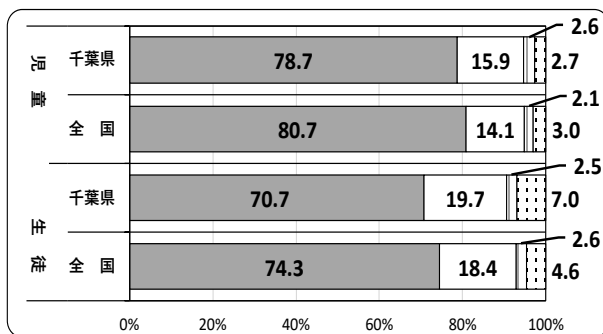
【生徒質問紙 英1】

上記3つの質問に、それぞれ肯定的に回答した児童生徒ほど各教科の平均正答率が高い。

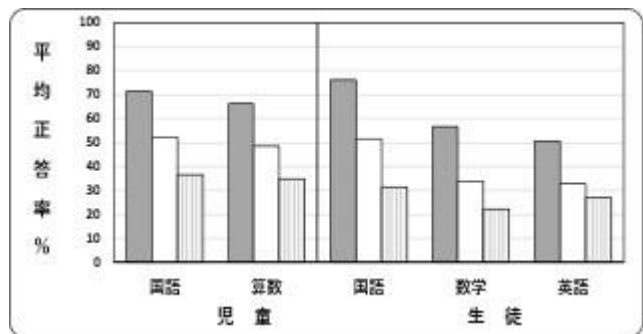
【児童生徒質問紙 国1】 解答を文章で書く国語の問題について、どのように解答しましたか



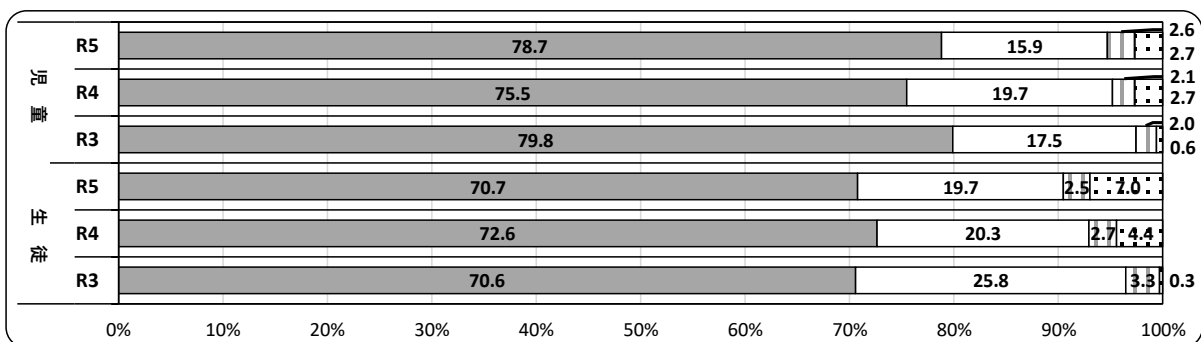
〈R5 全国との比較〉



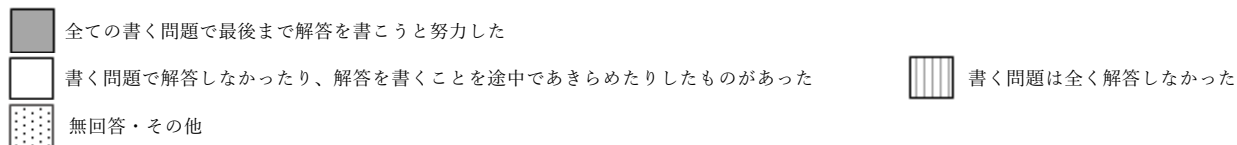
〈R5 回答結果と正答率の関連_本県〉



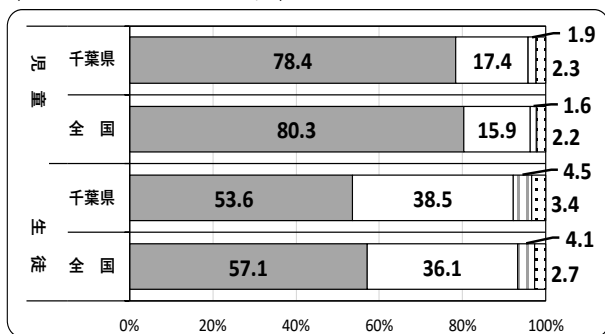
〈経年変化_本県〉



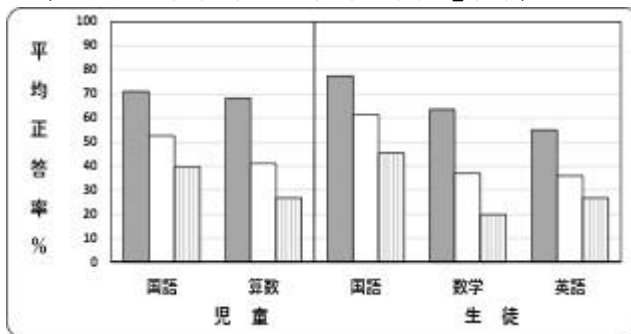
【児童生徒質問紙 算〔数〕1】言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く算数の問題〔言葉や数、式を使って説明する数学の問題〕について、どのように解答しましたか



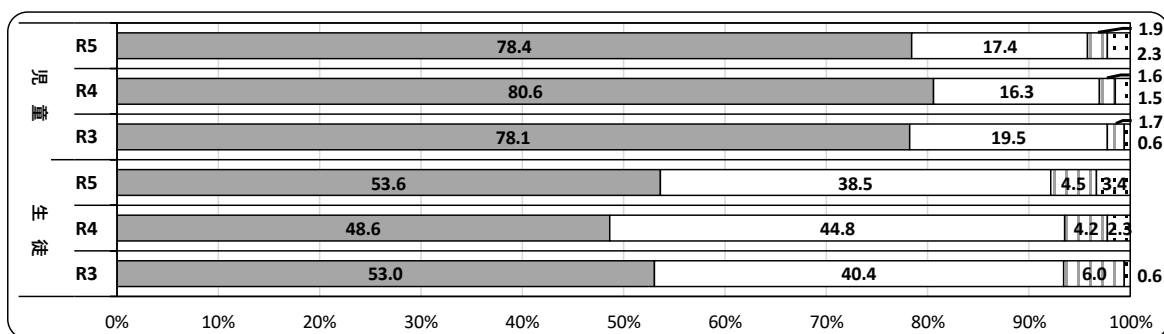
〈R 5 全国との比較〉



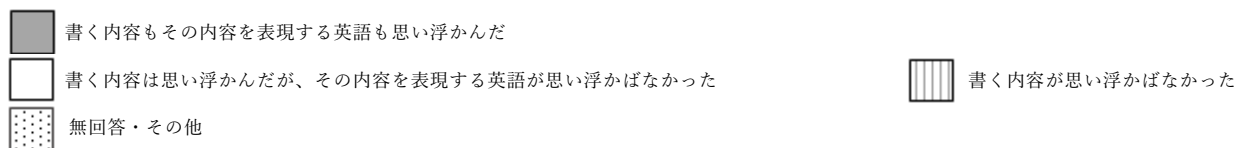
〈R 5 回答結果と正答率の関連_本県〉



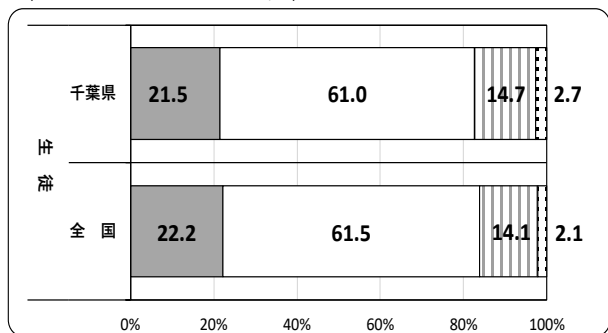
〈経年変化_本県〉



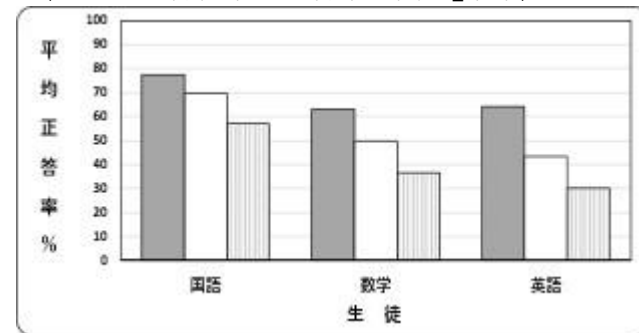
【生徒質問紙 英1】まとまりのある文章を書く英語の問題について、どのように解答しましたか **【新規】**



〈R 5 全国との比較〉



〈R 5 回答結果と正答率の関連_本県〉



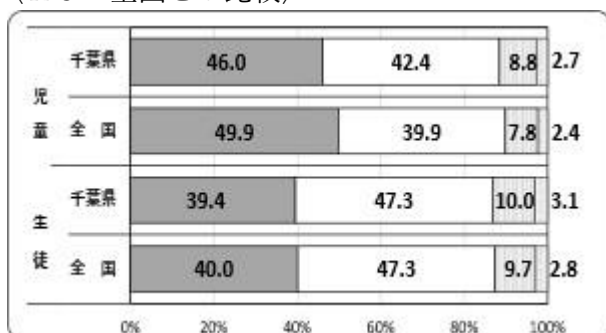
児童生徒の自己有用感、幸福感等に関する状況

- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」の質問に対する肯定的回答の割合は、全国と比較すると、小学校で1.4ポイント、中学校で0.6ポイント低い。
【児童生徒質問紙5〔5〕】
- 「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問に対する肯定的回答の割合は、全国と比較すると、小学校で0.8ポイント、中学校で0.3ポイント低い。
【児童生徒質問紙12〔12〕】
- 「友達関係に満足していますか」の質問に対する肯定的回答の割合は、全国と比較すると、小学校で0.7ポイント、中学校で0.8ポイント低い。
【児童生徒質問紙14〔14〕】
- 「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」の質問に対する肯定的回答の割合は、全国と比較すると、小学校で1.0ポイント、中学校で1.2ポイント低い。
【児童生徒質問紙15〔15〕】

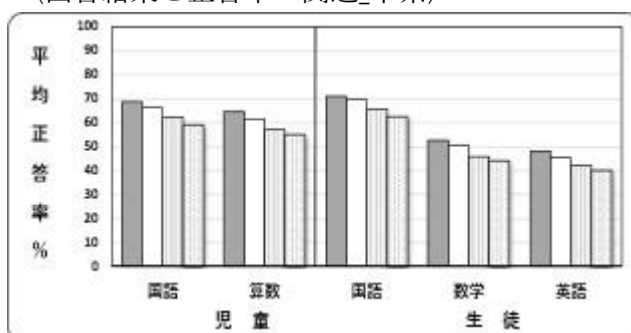
【児童生徒質問紙5〔5〕】先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

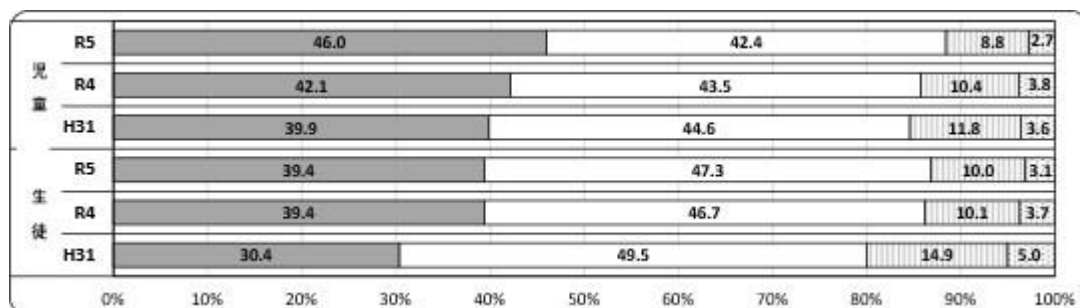
〈R5 全国との比較〉



〈回答結果と正答率の関連_本県〉



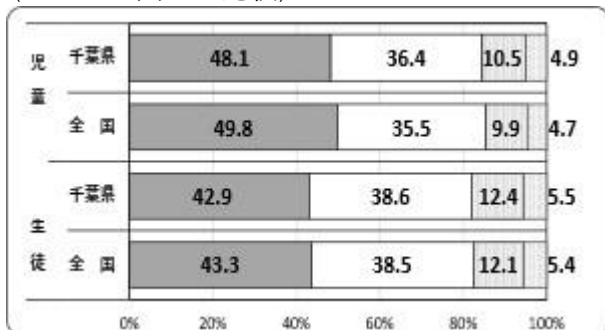
〈経年変化_本県〉



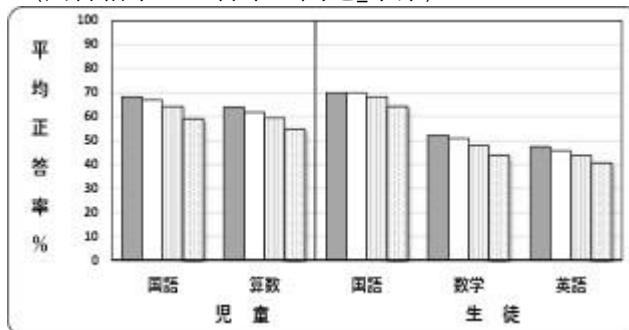
【児童生徒質問紙12〔12〕】学校に行くのは楽しいと思いますか

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

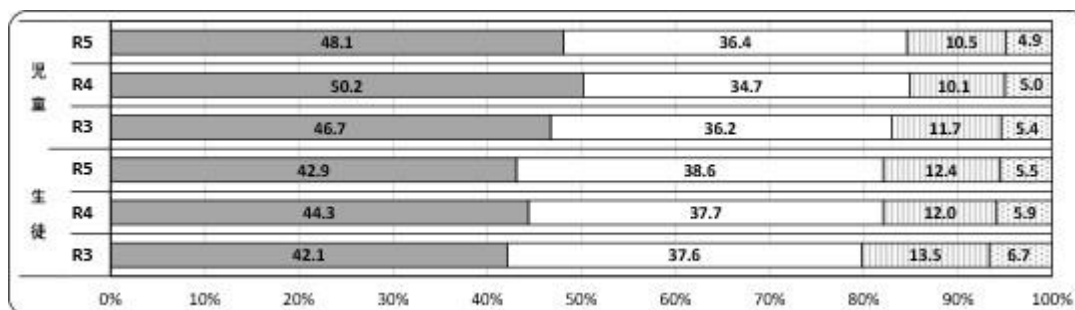
〈R5 全国との比較〉



〈回答結果と正答率の関連_本県〉



〈経年変化_本県〉

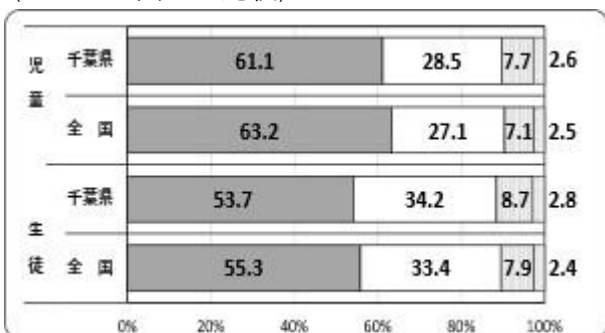


【児童生徒質問紙14〔14〕】友達関係に満足していますか

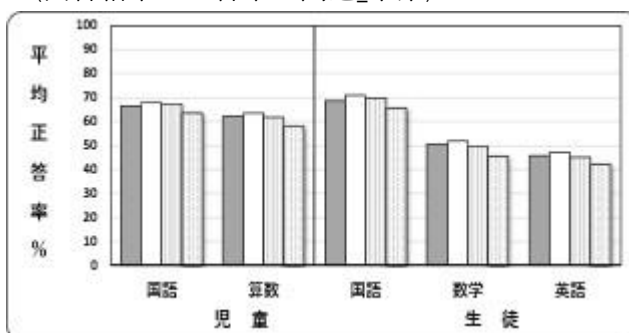
【新規】

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

〈R5 全国との比較〉



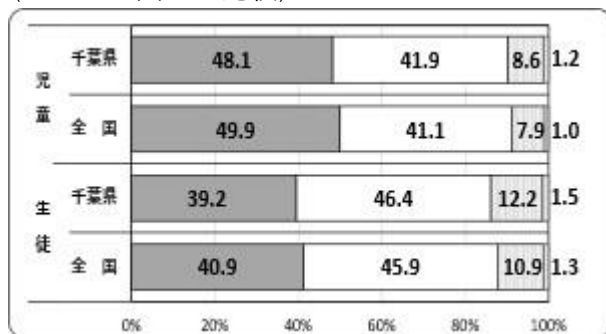
〈回答結果と正答率の関連_本県〉



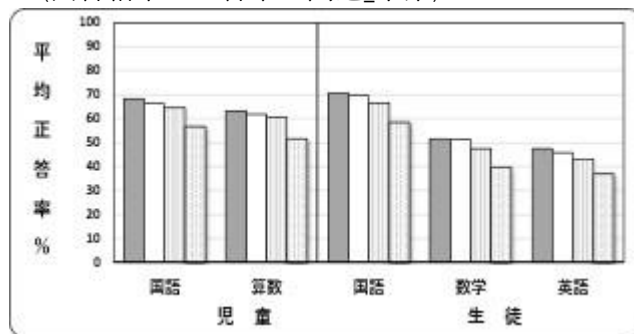
【児童生徒質問紙15〔15〕】 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか 【新規】

よくある
 ときどきある
 あまりない
 全くない

〈R5 全国との比較〉



〈回答結果と正答率の関連_本県〉



〈参考〉 本年度の主な変更点

- 教科に関する調査は、国語、算数・数学に加えて中学校英語を実施
 中学校英語は3年に1度程度実施しており、前回の平成31年度（悉皆調査）に引き続き、2度目の実施でした。
- 中学校英語「話すこと」調査及び児童生徒質問紙調査（一部）について、児童生徒が活用するICT端末等を用いたオンライン方式により実施
 中学校英語「話すこと」調査は、生徒が活用するICT端末等を用いたオンラインによる回答方式で実施しました。期間は令和5年4月18日（火）～5月26日（金）の間でした。
 児童生徒質問紙調査は、一部の学校で、児童生徒が活用するICT端末等を用いたオンライン方式で実施しました。令和5年度は、規模を拡大し、80万人程度の児童生徒を対象に実施しました。実施期間は令和5年4月10日（月）から5月16日（火）でした。（千葉県では、小学校で364校、中学校で51校がオンラインによる実施）。

○文部科学省提供資料については、国立教育政策研究所のWebページから入手できます。

[<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>]